

はじめに

地域志向教育とは日常の講義、すなわち座学で学んだことを大学の外で学生自らが実際に確認する教育である。同時に、学生が訪れた地域において、その活動がそこで生活する人々にとっても暮らしつづけるための刺激となるものである。そして、学生自身も自らの活動が社会化されることに気付く学習活動の一環でもある。

このブックレットは、地域志向教育の展開課程をその活動の中で撮影した写真を中心にまとめたものである。対象となる教育活動は、学生との教育実践の記録とともに、教師の問題意識に基づき調査に赴いた地域での調査活動の成果も含まれる。それらを3部構成にて整理したものが本冊子である。

第Ⅰ部は、地域の歴史を景観観察の教育的手法を用い、古代から近世までをまちなみの歩きつつその探訪をしようとの試みである。1つは御所市の皆さんとの協働作業を提示したものであり、もう1つは、奈良市を対象に撮影された古写真を使用しつつ、それと現在とを比較しながらその変化（不変）の背景を考察するものである。そして、最後に大津市坂本での教材研究を付け加えておいた。

第Ⅱ部は、小松原の課題意識に基づく授業実践報告の性格を有している。筆者の専門である産業立地研究や都市の構造分析の成果を教育現場に応用した成果を問うたものになっている。1章では、大阪湾沿岸域を徒歩や渡船を使いつつ、足を使って巡った様子をまとめている。また、2章では、滋賀県大津市から京都市につながる琵琶湖疏水の流域の見学の状況を示した。そして3章では、産業や都市の研究や教育に必要な不可欠な工場や展示施設の見学の様子を提示した。最後に4章は、日常の暮らしの中のまち歩きの様子である。

第Ⅲ部は、2011年に実施した奈良県立大学における「地域現場実習」並びに、立命館大学文学部における「ツーリズム学実習」の学生レポートの中から一部を選び出した。両実習ともに、小松原が教員として関わり「バスツアーの研究」というテーマで学生に取組ませたものである。それぞれの大学学部での教育を反映した成果になっていると思う。

さて、大学における入学時より卒業に至るまでの一連の地域志向教育の学修過程において、それを実行するためには学外での学習環境提供の場が必要となる。その観点から地域と大学との結びつきは、不可欠である。ここで取り上げている御所市と奈良県立大学との間では包括連携協定を締結しており、恒常的に両者間の協力関係を構築している。その成果を第Ⅰ部の1章で明示している。

御所市とわれわれとの関わりは2010年6月に市内のNPO法人の役員の方から、まちづくりについて、中心市街地の歴史的まちなみに関する調査活動へのお手伝いの依頼を受けたことに始まる。3年間の活動の後、2013年2月には町屋等地域資源発掘・発信事業に基づき、2012年度に学生が実施した調査・研究活動の成果を報告し、その議論を踏まえて報告書も作成し、一区切りとした。

ここで得られた経験は大学における教育研究活動に活用できているので、この試みは1つの大きな成果を得られたことになる。もう一方で、学生が得た知見を地域の皆様に検証していただいたことは彼らにとって、大学における一連の学修の進化のために重要であった。御所市の皆さんとは、その後も地・学相互貢献活動を継続している。

第1部2章は、都市の現在と過去を画像で比較することによって、都市の形成過程を振り返り、都市の在り様を学生に考えさせる試みである。野外活動として、入江泰吉の古都奈良の風景写真とその現状の比較を実施した。入江の眼に、ファインダーを通して垣間見えた日常を、今のそれと同じ視角から重ねてみたいと考えたのである。移動とは場所の移動もあるが、同じ場所でも時間が異なればそれは、時空間の移動となる。入江泰吉をキーワードに一人の一人の時間と空間がこのツアーを通じて共有化できればとの考えである。

テキストの1冊の『入江泰吉の原風景/昭和の奈良大和路/昭和20～30年代』は、入江泰吉(1905-1992)の写真集であり、編者は「入江泰吉記念奈良市写真美術館」である。その名の示すように、入江の作品群を主たる収蔵品としているこの美術館は、入江が亡くなる前年に彼が、全作品(約8万点以上のフィルム)と著作権を奈良市に寄贈し、それを機に建てられたものである。

そして、編者の「はじめに」(3頁)にも記されているように、この写真集は、「入江泰吉は戦後から昭和30年代にかけて、……過ぎ去った時代と人々の暮らしを切り取った貴重な記録写真」の性格をもっていることを明示しているのである。だから、当写真集はフィールドツアーなど、教育への活用の可能性は大きい。新旧の写真を比較しつつ、変わらぬ理由、変化の背景を考えることは、その背景にある地域構造研究や産業の立地を分析する際にも役立つのである。

こうした成果を踏まえてわれわれは、2013年度より文部科学省の公募による「地(知)の拠点整備事業」の一環として、「地学連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」の事業に取り組んでいる。この事業は、文部科学省の公募要領にも記されているように、大学教育改革と自治体(地域、都市)の再生や活性化とを連動させるものである。

小松原も学内にあって、地域志向教育研究の競争的資金を得るなど、その活動に積極的に関わっている。本冊子の編集は、その成果の一部を利活用させていただくものであるとともに、これまでの本件に関する一連の先行的活動を確認するためのプロセスでもある。この一連の作業を通じて、地域志向教育研究活動を一層発展させたいと考えている。

(小松原 尚)

目次

I 歴史探訪・まち観察

1. 御所市での地・学相互貢献

- 【1】まちなみ悉皆調査（2010年11月28日）……………1
- 【2】まちなみ利活用の現状観察ツアー（2011年6月27日）……………2
- 【3】霜月祭（2011年11月13日）……………4
- 【4】地域資源発掘・発信事業（2012年～2013年）……………6

2. 奈良市旧市街の昔と今

- 【1】入江泰吉らの風景古写真を素材として……………10
- 【2】大仏鉄道跡地と奈良ドリームランド周辺の景観変化……………15
- 【3】岡田庄三写真を使用した平城宮今昔……………16
- 【4】平城宮跡を対象とする景観観察……………20

3. 坂本におけるまちなみ観察……………23

II 産業観光・都市生活

1. 大阪湾沿岸域の観察

- 【1】イノベーションと都市の発展……………24
- 【2】北緯34度40分帯を大阪ドームから天保山へ……………30
- 【3】桜島と天保山……………36
- 【4】咲洲と夢洲……………38
- 【5】大正区渡船巡り……………39
- 【6】大阪難波から西九条まで……………45
- 【7】JR桜ノ宮からJR新福島まで……………47

2. 琵琶湖疎水の見学

- 【1】2010年2月6日……………48
- 【2】2011年6月18日……………51
- 【3】2013年1月26日……………52
- 【4】2013年6月8日……………54

3. 工場・展示施設の見学	
【1】魚崎郷の酒造業見学（菊正宗、櫻正宗、浜福鶴）	55
【2】アサヒビール西宮工場見学	59
【3】キューピーマヨネーズ伊丹工場見学	61
【4】北海道における醸造業を素材としたバスツアー体験	62
【5】ニッカウキスキー余市蒸留所見学	63
【6】近鉄電車展の観覧（天理参考館）	64
【7】祇園おもいで博物館	65
4. まち歩き	
【1】奈良市内で「まちまかバル」	66
【2】高の原ニュータウンでのフィールドツアー	69
【3】城下町亀岡でのまち歩き	73
【4】東京都港区白金・白金台	74
Ⅲ バスツアーを楽しむ野外実習（2011年5月～6月）	
1. 奈良県立大学学生	75
2. 立命館大学学生	80

テーマ	御所まちなみ悉皆調査			
日時	2010年11月28日(日)		場所	御所市商工会議所ほか
①	JR御所駅待合室での打合せ		②	市内の公共掲示板に貼られた調査協力依頼
				
③	学生と地元の方と一緒に調査活動		④	調査メモと集計表ほか
				
⑤	調査結果の集計作業		⑥	調査結果を踏まえての意見交換
				

奈良発 09:05～王寺着 09:21 (JR 関西本線快速・JR 難波行)、王寺発 09:27～御所着 10:00 (JR 和歌山線・和歌山行) 9:50 JR 御所駅集合し、現地スタッフとあいさつの後、10時より調査について説明を実施した。10:15から各班分かれて現地調査を開始し、途中、12時に、御所市内西町入船本店にて昼食をとる。休憩の後、13時より各班分かれて現地調査を再開した。調査終了後、商工経済会館にて集計作業と意見交換を行った。今回の活動の目的は、①地図の現場での利用方法を体験する。②地域におけるNPO法人の活動にふれる。③地域の人々との共同作業とコミュニケーション方法を身につけることにあった。無事に調査活動とその後の集計作業も終えられた。御所に暮らす方々とチームを組んで、ご案内をいただき、「まちなみ」への思いをうかがいながらの調査活動は、日常の大学生活では得難い数多くのインパクトがあったことと考えられる。今回の目的は概ね達せられたと考えられる。

テーマ	御所市のまちなみの利活用の現状の観察ツアー		
参加者	【奈良県立大学】小松原、中嶋【御所市】楠、中井、清水ほか【その他】竹田		
年月日	2011年6月27日	場所	御所市
① 円照寺正門前			
② 円照寺本堂を臨む			
③ 中井陽一さんのお宅へ			
④ 中井さんから検地絵図の話をかぎ			
⑤ 検地絵図、下がコピーで上が本物			
⑥ 中嶋さんが、本年度の活動を説明			

梅雨明けかと思えるような猛暑に朝から見舞われた。それをものともせず奈良県立大学のまちゼミの2名は御所へと向かった。JR 御所駅でいつもお世話になっている現地の方々と合流した。今回は県内の歴史的まちなみの利活用に詳しい竹田さんにも参加してもらった。参加者の健康を配慮し、楠さんが車を用意して下さり、立寄り箇所以外は車で移動することになった。まず、復元された高札場を訪れ楠さんから説明をうかがった。その後、車での移動中にまちなみ観察を実施した。そして円照寺では楠さんから寺院の縁起、東御所の寺内町に関する解説、平成の本堂の瓦葺き替えの模様の説明があった(①②)。いよいよ検地絵図の所蔵者である中井さんのお家を訪問(③)。旧家の中は外の猛暑とは別世界、ひんやりしていた。エアコンもほとんど使わず、ご自身の太陽光発電を関西電力に売電しているとのことであった。いよいよ検地絵図の解説、市内に当時の絵図の控えを所有している方が2名おられそのお1人とのこと。現代のカラーコピーのものとの現物を比較したが、遜色なかった(④⑤)。そのまま中井邸のお座敷をお借りし、われわれのまちゼミの今年度の活動の説明を行った。小松原の概要説明の後、中嶋さんが、自身の参加している京都歴史回廊協議会のインターンシップの活動を説明した(⑥)。

テーマ	御所市のまちなみの利活用の現状の観察ツアー		
参加者	【奈良県立大学】小松原先生、中嶋 【御所市】楠さん、中井さん、清水さんほか【その他】竹田さん		
年月日	2011年6月27日	場所	御所市
① 円照寺内 本堂			
② 円照寺正門の意匠(龍)			
③ 円照寺内の御所柿			
④ 普通の柿は4片(左下)に対し御所柿5片(右2つ)			
⑤ 中井さんのお宅の玄関にある当時の高札			
⑥ 中井さんのお宅で検知絵図のお話しを伺う。			

王子駅で小松原先生に会い一緒に御所駅へ向かった。9時54分に御所駅に到着すると、すでに皆さんお集まりだった。あまりの晴天に熱中症を避け歩きから車での移動に変更。まず、御所町北西部にある遠見遮断で一度振り向かないと見落としがちな高札場に移動。平成20年3月に復元された高札を見ながら楠さんに説明を伺った。その後、町並み観察をしながら円照寺へ移動(①)。円照寺では楠さんから本堂のつくりや、平成16年の本堂大屋根修理の様子の説明、極上品とされる御所柿復活の話などがあつた(②③④)。次にいよいよ昔の資料の宝庫である中井さんのお宅を訪問。玄関に当時のまま残る高札が3つ飾られ、他にも当時使われていたものが置かれていた(⑤)。国登録有形文化財に登録されている中井邸の中は、迷路のようなつくりになっており、私が小さい頃同じような家の中でかくれんぼをしたのを思い出した。いよいよ検知絵図の解説を本物とコピーを見比べながらしてもらった(⑥)。現物は時を経た紙のおいと、仕舞われて染み付いた箱のおいがした。その後、小松原先生がまちゼミの今年度の活動の説明を行い、中嶋も京都歴史回廊協議会のインターンシップの説明をし、竹田さんも研究の御説明をされた。

①JR 御所駅前にて



②岸本邸前で、楠さんから説明を聞く



③中井邸内で当主の話を聞く



④行者おねりを見学



⑤行燈づくりにも参加



⑥円照寺本堂前



参加者：北山、竹本、丹野、東、藤本、松尾【小松原ゼミ（3年）】、岡、真柴、宮島【小松原プレゼミ（2年）】、中嶋【安村ゼミ（3年）】、前田【麻生ゼミ（3年）】

テーマ「御所市における歴史的建造物群のイベントによる利活用に関する体験的観察」

目的：御所市における歴史的建造物群の利活用の現状について、イベントへの市民の皆さんのかかわり方を、それへの参加者の立場から観察し、御所市民と保存活動への理解を深める。

集合時間と場所：午前10時、JR 御所駅前

【奈良より御所までの連絡】

所要時間：53分(乗車：46分、その他：7分) 乗車料金：570円(乗車券)

発着時間：JR 奈良 09時05分発【快速】関西本線、王寺 09時20分着、同 09時27分発【普通】和歌山線、御所 09時58分着

⑦ 中心商店街を歩いて「ごせまち」へ



⑧ 背割り用水路の説明を聞く



⑨ 地元の小学生作成の環境壁新聞の前で



⑩ 土蔵の中でクラシックコンサート



御所まち 地域資源発掘・発信事業打合せ 2012年8月7日火曜日 14時から 御所市本町赤塚邸
 【県立大学】金丸、辻、志村、小松原（引率教員） 【県庁】地域デザイン推進課：辻本、堀
 【ごせまち】角南、楠、中井、吉田ほか市民の皆さん



打合せ会場には、エアコンなし。古民家なので、外気温よりは涼しい。



古民家の観察。「奈良県以外だったらとくに重伝建地区に指定されている」との感想の聞かれた。NPOでは、今後、登録文化財を増やす方向で活動を進めるとのこと。



「NPO ごせまちネットワーク創」の皆さんによる「町屋等地域資源発掘・発信事業」のための意識調査や活動を進めるため、われわれ奈良県立大学の有志と話し合い、お手伝いの可能性を探るための打合せに参加した。具体的な活動内容：「NPO ごせ」執行部の方での検討事項、学生の学修活動の範囲でのお手伝いの可能性について検討、意見交換した。

テーマ	町家等地域資源発掘・発信事業「地域資源発掘活動」の打合せと試行調査		
日時	2012年10月27日(土)	場所	御所市商工会議所会議室、中井邸
① 商工会議所会議室にて			
② 中井さんのお宅での打合せ			
③ 楠さんから試行調査の説明			
④ 試行調査票の内容確認			
⑤ 調査グループの編成			
⑥ 今後の行動計画の打合せ			

◆JR奈良駅 11時47分発に乗車、王寺、高田での乗換を経て、12時35分 JR御所駅着した。◆13時より打合せ会議を始めた。アンケートを含む調査活動についてNPOの方々との打合わせ、そこで確認した項目を踏まえて、試行調査を実施した。この結果を踏まえて、聴き取り事項などの加除修正の検討をおこなった。最後に今回の調査を行ってみての情報共有化と活動内容の改善点を話し合った。終了は17時過ぎ、現地で解散となった。◆帰りはJR御所駅17時42分発、JR奈良駅18時32分であった。◆今回の試行調査に参加した学生の報告の中では、インタビュー調査の結果からわかったこととして、建築年代、建築方式などのご自宅・町家に関する詳しい知識をもっている住民の方もおられたることに感心していた。例えば、木材はすべてケヤキの木を使用しており、釘を使わずに組み合わせによって建てられたものであることや、重厚建築のため地震のとき横揺れは激しいが、家屋の物が落下したり、壊れたりしたことはない。ということに興味深かったことが記されていた。また、NPOの方からは、御所が持つ古民家を活かして活気あふれる多くの人が訪れる町にしたい。ことや、町家、古民家を活用した伝統的・文化的なまちづくりへの意欲が語られた。

テーマ	町家に住まわれている方や所有者を中心にした意向調査【1】		
日時	2012年11月11日(日)	場所	東御所と西御所一円

① JR 御所駅待合室での打合せ



② 調査に出発



③ 「ごせまち」で調査



④ 石川先生のご指導のもとに



⑤ 玄関先で調査のお願い



⑥ 古民家の所有者からの聞き取り



学生から住民の方への質問内容と回答をいくつか紹介しておく。「町屋を有効に活用する方法として、どのようなものが思い浮かびますか」という質問に対しては、「わからない。このまま現状維持するのが精いっぱい」。「今の御所についてどう思いますか」に関しては、「若い人がいない。高齢者がほとんどとなってしまっている。若い人に御所にきてもらい、まちが活発になってほしい、」という意向が示され、そのためにも「外からの人を受け入れてくれるまち。閉鎖的なまちでは決してない」という考えが伺えた。「御所のまちで生活する上で不便だと感じる場所はどこですか」と尋ねると「昔からある道は狭く、一方通行の道路も多い為大きな車が通りにくく不便に感じている」という答えが寄せられた。「人口が少なくなっていることについて、どうお考えですか」と聞いてみると、「若い人がほとんど外に出て行ってしまっているため、高齢者ばかりでさみしい」との回答を得、さらに、「観光客が来ることについて（観光地化することについて）」は、「観光客が来ること自体は賛成。現在住んでいる町屋を観光客に見学してもらうことにも賛成」と答えつつも、「しかし、御所について観光客にPRするものはないと感じている」との答えだった。今回の調査で、学生たちは、御所まちの町家を、より深く理解し、改めて我々の故郷の素晴らしさを再認識する機会もなった。



2012年8月7日(火) 赤塚邸にて



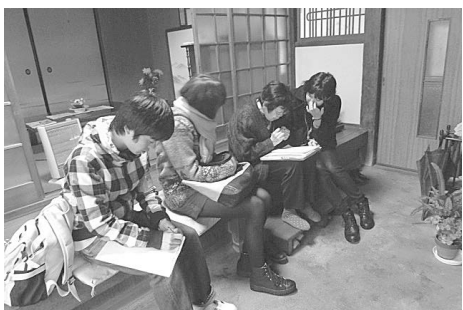
2012年10月27日(土) 御所市商工会議所会議室



2012年10月27日(土) 中井邸にて



2012年11月11日(日) アンケート調査



2012年11月11日(日) アンケート調査



2012年12月1日(土) 追加調査



2013年2月16日(土) 調査報告会



2013年2月16日(土) ワークショップ

出席者 竹本、藤本、中嶋

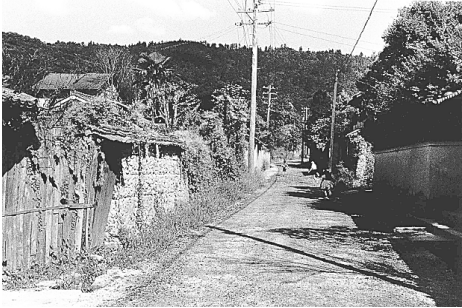
① 新薬師寺



② 新薬師寺界限



③ 高畑、志賀直哉旧宅前



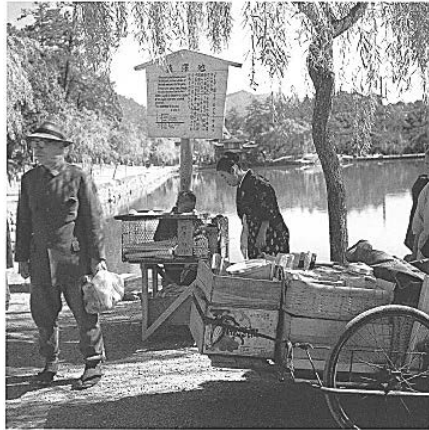
引用文献 『入江泰吉の原風景・昭和の奈良大和路-昭和20~30年代-』

『入江泰吉の原風景・昭和の奈良大和路-昭和 20～30 年代』2011 年、光村推古書院
 この写真集の「読書」会も実施した。写真集を各自携え、入江の 5、60 年前の奈良のまちなみをとら
 えた画像とわれわれが、同じアングルから撮影した今とを比較するツアーをした。写真美術館で入江の
 写真展の鑑賞した後、新薬師寺からスタートした。変化した奈良と変わらない奈良の時空間の移動を楽
 しんだ。写真と地図を利用しながら奈良での野外活動の方法を学生は習得できた。







鶴福院商店街



猿沢池

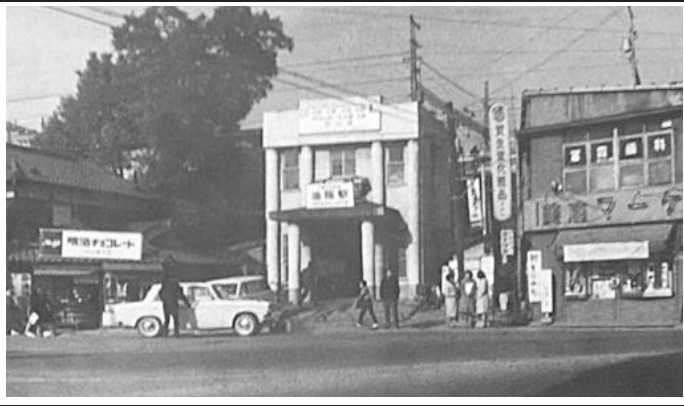


2011 年 9 月 15 日 (木) 実施 参加者：竹本、藤本 (小松原ゼミ)、中嶋 (安村ゼミ)

テーマ	専門ゼミⅡ フィールドツアー 油阪から近鉄奈良沿線の変化の観察		
日時	2012年7月16日 17時40分より	場所	油阪交差点から近鉄奈良駅前までの登大路
①油阪駅跡		②蓮長寺参道南(1)	
③蓮長寺参道南(2)		④近鉄奈良駅前(1)	
⑤近鉄奈良駅前(2)		⑥近鉄奈良駅前(3)	

専門ゼミⅡの夏休み前の最終である。教室にて、各自卒論テーマに沿って先行研究調査の状況を報告し合った。そして、休業中の学修計画を確認した後、このフィールドツアーの行程説明を行った。また、当日も猛暑に付、日よけ対策や水分補給についての確認をした。その後巡検に出発した。油阪は大学の間近であるので他のゼミの学生(水玉模様のTシャツ)も「この暑い時に一体何をしているのか」と様子を聞いていた(①)。大路を近鉄駅方向に上って行った。200mほどの所、蓮長寺参道(道幅数m)と片側2車線の登大路との交差点に信号がある(②)。なぜここに信号があるのかいつも不思議に思っていたが、資料の写真と重ねると謎が解けた。それから入江写真に写っていた塗料屋さんも、向かいの大和屋根の家も健在であった(②、③)。さらに歩を進め、近鉄奈良駅前に到着した。駅前の景観の半世紀前との比較をした(④、⑤)。奈良交通のビルは5階建てになり、幸福相互銀行は関西アーバン銀行になっていた。一連の観察を終え、日没の迫る18時10分頃に解散した(⑥)。その後有志で食事会をもった。結果として、全員が参加した。会場は先ほどの奈良交通のビルの4階の「大和路」という和食屋で、串揚げなどに舌鼓を打ちつつ歓談を交わした。

油阪駅



油阪高架東方

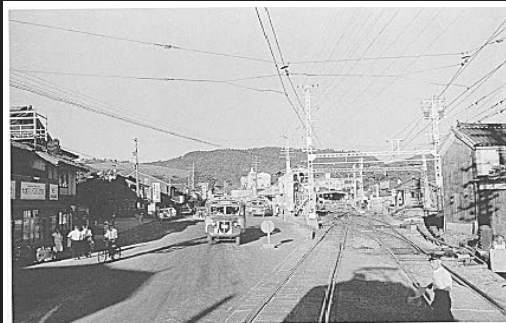


蓮長寺参道南下
近鉄の高架が歩道と交わる所





1968年7月20日に南寄りの元貨物取扱駅に移り、その仮駅は地下の本駅舎の完成する1970年2月まで使用された。
藤井辰三編（1979）『ふるさとの思い出写真集/明治・大正・昭和/奈良』国書刊行会



高天交差点付近、昭和30年頃

近鉄奈良駅西の百天交差点から東を望む。遠くに若草山も見える。

高天交差点付近、1956年頃

引用文献 入江泰吉記念奈良市写真美術館編（2011）『入江泰吉の原風景・昭和の奈良大和路-昭和20～30年代-』光村推古書院
10頁

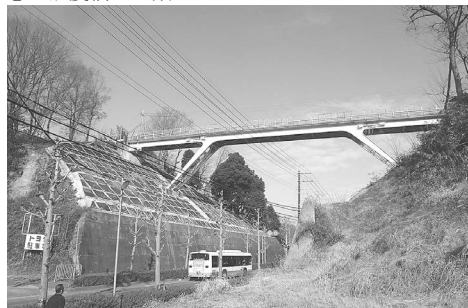


近鉄奈良駅前 1958年

引用文献 入江泰吉記念奈良市写真美術館編（2011）『入江泰吉の原風景・昭和の奈良大和路-昭和20～30年代-』光村推古書院 8頁

テーマ 構造物の景観変化からみた奈良市旧市街の変容

① 黒髪橋の全景



② 黒髪橋付近の廃屋



③ 荒廃するドリームランド



④ バス停は現在も健在



⑤ 大仏鉄道の線路跡の宅地



⑥ 鉄道用地跡に建つ県立大学



19世紀の末葉に、奈良駅から加茂駅まで関西鉄道大仏線が通っていた。開通から10年で廃止、1世紀余りを経過した現在その跡地は、道路(①)や宅地(⑤)や大学用地(⑥)として利用されている。①ではかつてはトンネルであったが、現在は開削されて切通になっている。また、⑤の宅地は当時の地籍を反映し、道路に対して斜めになっている。また、⑥の大学の敷地の西端の部分には当時の鉄道用の土手の崖を補強した石垣が残っている。

1960年代以降にはレジャーパークとして、このドリームランドの界限は賑わった。しかし、その後は客足が遠のき、21世紀に入って閉園に至った。バス停に夢のあとをしのぶのみである(④)。かつて家族連れで賑わった正面ゲートへのアプローチも現在は荒れ放題である(③)。また、向かいの店舗も閉鎖され、廃屋と化している(②)。廃墟巡りの被写体にもなっている。この地域は、古都奈良の世界遺産登録地域の「裏側」にあたる。奈良市の東部、いわゆる旧市街は古都奈良の歴史的景観が世界遺産としても登録されており、その保全には強い関心がはらわれている。しかし、その一方で、こうした隣接地域では都市的土地利用の放棄による荒廃もみられることがわかる。



S33. 11. 23 (1958) 佐紀町バス停より南 100m位の所より南南東方向。第一次大極殿付近より望む



H21. 9. 1 (2009) 第一次大極殿付近より南南東を望んだ風景。昭和 30 年代当時、このあたりは一面の田んぼが広がっており、農道が南に伸びていた。道の先が、現在朱雀門がある方向。稲刈りが終わり農家の方が、すりぬか(米のもみ殻)をまこうとしている光景がみえる。佐紀町バス停より南 100m位の所より南南東方向。



S. 34. 1. 1 (1959) 第一次大極殿の南から東を望む背後にみえる三笠山の稜線から、かろうじて2つの写真が同じ位置からの撮影であることが分かる。



H17. 5. 26 (2005) その右奥に 1989 (昭和 64) 年から 1992 (平成 4) 年にかけて整備された宮内省の建物がのぞいている。佐紀駐在所南 100m位の所より東方向である。



S40. 3. 21 (1965) 第二次大極殿跡西 100m より西方向。写真右端には、旧八木邸がみえる。また左端には、現在の奈良文化財研究所の庁舎 (当時の県立奈良病院) がある。

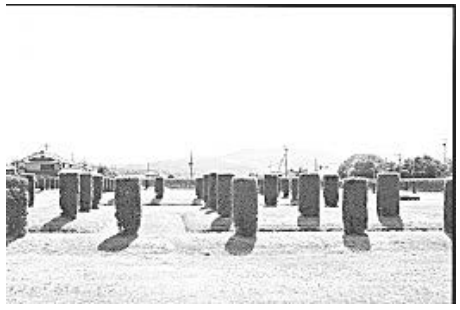


H17. 5. 26 (2005) 第二次大極殿跡西 100m より西方向を望む。40 年後の旧八木邸の場所には、復原工事中の第一次大極殿の覆屋が写っている。

小松原研究室 野外活動教材「平城宮跡今昔」



S33. 7. 6 (1958) 佐紀町バス停より北 100m位の所より東方向、西より大膳職を望む。写真中央やや左寄りにある建物は佐紀駐在所で、現在は南の一条通り沿い（右写真右端の信号機隣）に移転されている。



H17. 5. 26 (2005) 第一次大極殿の北側は奈良時代、平城宮の給食センター「大膳職」があった場所で、発掘調査の成果をもとに建物の柱の跡がイヌツゲの木で表示されている。



S38. 1. 13 (1963) 第二次大極殿跡南西より北東方向。西より第二次大極殿を望む。大正期、第二次大極殿周辺は史蹟に指定され整備された。大極殿の土壇の前には石標が建てられた（この石標は、現在も同じ場所に立っている）。



H17. 5. 26 (2005) 第二次大極殿は1980（昭和55）年に石づくりの基壇に復原整備され、前の広場には儀式の時に置かれた旗を取り付ける7本の柱も設置された。



S38. 1. 13 (1963) 第二次大極殿には、黒松が植えられている。この木は、1910（明治43）年、平城遷都千二百年祭の日に植栽された。左右には案内板が立っており、左は奈良県教育委員会が昭和29年に作成した平城宮跡の解説。



H17. 5. 26 (2005) 第二次大極殿跡正面より北方向。第二次大極殿基壇（南から）。



S38. 1. 13 (1963) 第二次大極殿跡東より西方向。
第二次大極殿基壇 (東から)。



H17. 5. 26(2005) 第二次大極殿は、昔から土壇の高まりが残っており、地元の人々からは「大黒の芝」と呼ばれていた。またその南の朝堂院・朝集殿院にも建物の土壇が残っている。このあたりは、奈良時代の名残をとどめており早くから都のあととして知られてきた。



S33. 12. 7(1958) 笠の形をしたのは、「じんど」といって稲刈りの後の藁(わら)を束ねたもの。使う時のために、こうして乾燥させ置いた。この頃の平城宮跡の典型的な秋の風景。「じんど」ごしに第二次大極殿の黒松と石標がみえる。



H17. 5. 26(2005) 第二次大極殿西より東方向。第二次大極殿をのぞむ(西から)。



S40. 3. 21 (1965) 第二次大極殿跡東側を北西方向。第一次・第二次大極殿を望む(東から)。



H17. 5. 26(2005)。右端に第一次大極殿(建設中)、左端に第二次大極殿が写っている。手前にある「東樓趾」の石標は、大正期の整備で設置されたもの。その後 1980 年代の整備により、地面に土を盛り石敷きにしたため石標が少し埋もれてしまっているのが分かる。



S40. 1. 13 (1965) 西南西より、平城宮陞保存記念碑。内務省 1926 「平城宮陞調査報告」口絵より。1923 (大正 12) 年、奈良大極殿陞保存会は平城宮跡が史蹟に指定されたのを記念し「平城宮陞保存記念碑」を建てた。石碑のまわりに石柱の囲いと松の木がある。1926 (大正 15) 年の整備報告写真にはこの囲いと松が写っており、大正期のものがこの時期まで残っていたことが分る。



H17. 5. 26 (2005) 今もその石碑はそびえている。

【注記】本資料は、独立行政法人奈良国立文化財研究所と岡田庄三さんの承認を得て、大学における野外活動教育の教材として利用するため、岡田さんの写真と文章を利用して小松原尚が教材編成したものである。本資料に掲載の写真と文章の著作権は岡田庄三さんに属し、無断転載や複写は禁じられている。

本時講義のテーマ	奈良平城宮跡観察ツアー—地域の産業と共存する世界遺産—
参加者	何住寧、川崎瑠美、関英恵、指導教員：小松原尚
当日の準備	奈良市内は氷点下の気温であったので教員がホッカイロを用意し、学生に配布した。川崎、関の2名が使用した。立寄観察地点を記録する課題用紙を用意した。

講義内容	1) 近鉄新大宮駅：周辺はオフィスや集合住宅、宿泊施設も立地、平日は通勤・通学客の乗り降りでも賑わう。休日はハイキング客の待合せ地点の1つともなっている。
	2) 平城宮跡まで、古都奈良の路上観察： 大宮通を西へ向かう。この道路は奈良のメインストリートの1つである。道路沿いには市役所や警察署などの公的機関や企業のオフィスが並んでいる。また、逆に東に行くと登大路となり、奈良公園へと通じる観光道路でもある。この時期は初詣のラッシュが過ぎ、道路も空いていた。朱雀門の周辺は化学工場の敷地が迫っておりその様子も観察した。また、門を抜けるとすぐに近鉄電車の線路があるということも地域の産業と世界遺産の共存を考える上で重要と指摘した。さらに、平城宮跡は昨年の遷都1300年祭のメイン会場であり、現在その撤収作業が進行している。公共事業のあり方を考える上でも素材となった。
	3) 長屋王邸宅跡：邸宅の一部を構成する庭園を見学した。邸宅の敷地の広さは甲子園球場の1.5倍であること、大部分は大規模小売店舗の下になってしまっていることを説明した。
	4) 遺構展示館：1300年前の地層が発掘されたまま保存されている。全国的にも珍しい展示方法である。解説ボランティアの方の説明を聞きながら見学した。
	5) 奈良文化財研究所平城宮跡資料館企画展示室：時間の関係で内部の見学は省略し、ここで当日の見学ポイントを振り返り、課題用紙を完成させた。



<http://www.gsi.go.jp/common/000057016.pdf>

通ったコースを上地図に記入



新大宮駅前の案内図で周辺の状況や平城宮跡までのコースを確認した。



長屋王邸宅の一部宮跡庭園の説明を読む。



平城京の全体を示す足元のコンクリート製の地図を見学し、朱雀門と大極殿を眺める。

課題	観察ポイントごとに気づいたことを記入しなさい。本日提出		
自分の番号と名前に○	2008****何佳寧	2008****川崎瑠美	2008****関英恵

1) 近鉄新大宮駅

2) 平城宮跡まで、古都奈良の路上観察

3) 長屋王邸宅跡

4) 遺構展示館

5) 奈良文化財研究所平城宮跡資料館 企画展示室



<http://www.gsi.go.jp/common/000057016.pdf>

6) 通ったコースを上上の地図に記入しなさい。

参加者 北山、竹本 【引率教員】小松原

① 大和西大寺南口よりアンダーパスへ



② 玉手門より平城宮跡へ



③ 朱雀門と歴史館への道



④ 遣唐使船デッキから展望




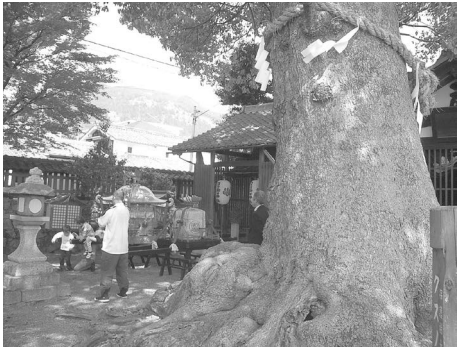


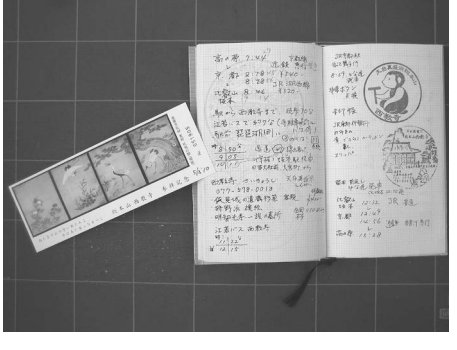
⑤ VRシアター内部



⑥ 歴史館からの帰路



大和西大寺駅の南改札を出て線路沿いをしばらく歩くと近鉄線のアンダーパスへの入口に至る(①)。目的地は近鉄線の南に広がっているのここをくぐって良いものかとしばし思案した。結論は「そのまま行く」でよし。このパスは樫原線と電車整備工場の下を通るためのものであった。ほどなく奈良線と交差する道路に出た。それに沿って南行すると玉手門跡に着く。向かいには旧「かんぼの宿」である。そのまま園地の中へと入っていく(②)。灌木林を抜けると砂利道の先に目的地である平城京歴史館とその隣の朱雀門を遠望できる(③)。そのまま道なりに進む。舗装道路と違い、砂利道は心なしか涼しい感じがする。ほぼ定刻に研修会が始まった。施設運営の責任者による挨拶の後、県立図書館情報館長の千田先生による講演があった。その中で、平城宮跡の歩き方として、コースのスタートを大和西大寺駅ではなく、新大宮駅(あるいは、尼ヶ辻駅、JR奈良駅)から始めるとの提起があった。小松原は本年1月にそのコースでエクスカッションを計画・実施しており、強力な補強意見を得た感があった。新大宮コースは現在、奈良の暮らしと遺跡の利活用や位置づけを考える上で恰好のコースとなるからである。季節が改まれば、ゼミ生の皆さんと一度体験してみたいと思う。さて、講演後の休憩時間に館内の見学を行った。遣唐使船の甲板からは例の「駐車場」、近鉄電車と大極殿を遠望できた(④)。VRシアター(⑤)にて3D画像による当時の平城宮見学の後、大和西大寺駅に向け、帰途についた(⑥)。

テーマ	坂本における寺内町の街並み研究		
日時	平成 22 年 5 月 3 日 (月) 憲法記念日	場所	滋賀県大津市坂本 西教寺
①			
	②		
			
③			
		④	
			
⑤			
		⑥	
			

- ① JR 比叡山坂本駅近くのコンビニエンスストア、門前町の景観に配慮した店舗の外装になっている。
- ②と③ 京阪坂本駅近くの日吉御田神社。田植えをひかえ、祭礼が行われていた。
- ④ 西教寺付近、禅林坊と聞證坊の屋根を通して琵琶湖が望める。
- ⑤ 西教寺は明智一族の菩提寺でもある。祖先を偲ぶ参拝者も見受けられる。
- ⑥ 西教寺拝観券と今回のフィールドノートの一部。

「科技创新・城市发展」 (イノベーションと都市の発展)

小松原 尚

この資料は、2014年11月22日(土曜日)に、上海師範大学外賓楼101会議室にて開催された、「沿岸域開発のイノベーションと都市の変容」をテーマとする2014年度中日人文地理・観光研究所国際セミナーにおける講演において使用したものである。内容は、奈良県立大学における地域志向教育のために作成したスライド教材をもとにしている。本文中に色を指す記述があるのは、原図がカラーであり、それを説明しているからである。

地域志向教育とは、日常の講義、すなわち座学で学んだことを大学の外で学生自らが実際に確認する教育である。同時に、学生が訪れた地域において、その活動がそこで生活する人々にとっても、暮らしつつけるための刺激となるものである。本学の学生は大阪方面からの通学者が多くこのため、奈良県との関連から大阪湾岸も取り上げる必要がある。

近年、中国語を使用する国や地域から、本学で学ぼうとする学生・生徒も増加している。その際に教育効果を高めるためには、中国語による教材の開発が不可欠である。その一つの試みがこの資料なのである。上記セミナーにおいては、この資料の中国語本文と画像を主体としたスライドを使用した。上海師範大学の学生も多数出席しており、彼らの反応を確かめられた。結果は良好であった。

中国語本文の作成には、京都大学工学部地球工学科二回生の張 錚さんの協力を得た。さらに、上海師範大学教授・王承云先生には、講演素材の閲読を賜った。記して感謝申し上げる。

1、正如大家所知道的，河流的出海口能够形成冲积平原，而地处海陆交界之处的城市被称为沿海城市，日本的大城市也多位于此。就以大阪为例，大阪就是利用扩大的陆地面积从而得到进一步的发展和改造的



典型城市。在 17 世纪初期以前，大阪的陆地面积一直都比较狭窄，像现在的 USJ 大型游乐场、水族馆等休闲游乐场所以以及一些工厂所在地在当时其实都还是海底，这条蓝色的线表示的就是 1704 年的海岸线。此处顺带一提，大阪的名字是到 19 世纪中期才有的，在这之前其实叫做大坂。

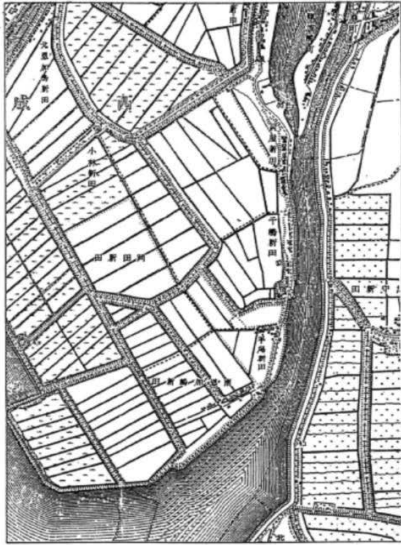
2、从 17 世纪后半叶开始，大阪的陆地面积开始逐渐扩大，这时的海岸线用黄线表示。通过观察 18 世纪与 19 世纪大阪的海岸线，此处海岸线分别用绿线和蓝线表示，可以发现从 17 世纪后半叶开始扩大的陆地面积一目了然。在当时，人们在浅海区域趁退潮之际设置堤防，这些地方因此而得到了



3、从 19 世纪后半叶起，日本进入了工业生产的革新阶段。就以现在大阪市大正区南部为例，由于 19 世纪中期的开垦，水田的面积因此得到了增加，继而又在水田所在区域填土造地，在此之上再兴建制铁和造船的工厂，日本近代先进地区就这么出现了。

地理学习研究会编：高校地理作业 1-1、清水書院

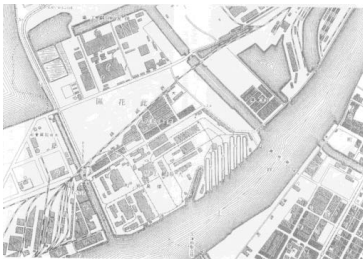
(3) 近世・新田 19C 天保山 1 : 20,000



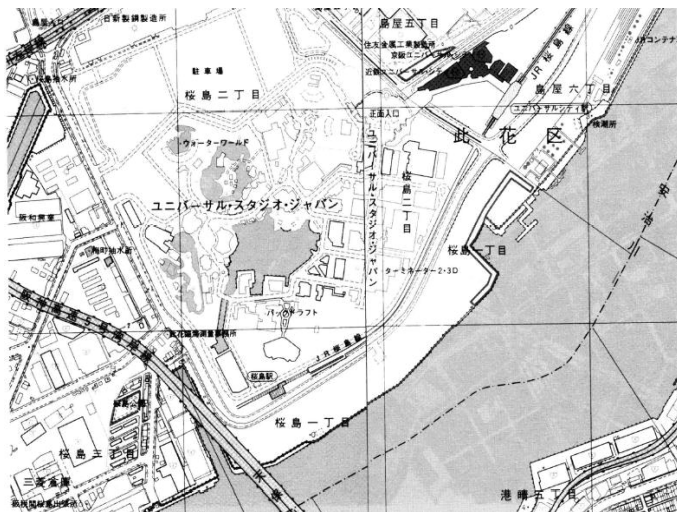
20C 大阪西南 1 : 50,000



4、现在 USJ 大型游乐场所在的地方在大约 30 年前正是金属制造厂和造船工厂的所在地。请看，这些是 1930 年左右的地图和照片。当时这个区域是日本工业生产必不可少的地区之一。但是到了 20 世纪末期，由于中韩两国金属制造业和造船业的迅速发展及扩大，日本此类生产开始逐渐减少。



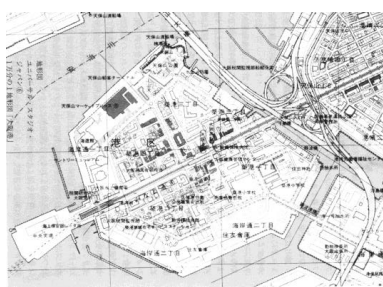
5、虽然日本的工业生产从那时起开始减少，但是取而代之的是服务业的发展。日本开始在原先工厂所在的位置建设大型主题游乐场来吸引游客，并通过门票的销售以及相关商品的贩卖来增加工业生产带来的收入。



6、大家请看这张照片，这是1930年左右大阪港口的样子，到处都能看到用来保管船只运送来的货物的仓库。如果比较当年的地图和现在的地图，就可以发现，当初做贸易的场所变成了现在的水族馆、购物中心等等休闲场所。这就是船舶运输方式的变革带来的港湾地区土地利用方式的变化。



昭和十一年（一九三〇年）の大阪港の様子。写真は、大阪港の中心部に位置する、かつての大阪造船所跡地。この地区は、戦前には造船所として栄え、戦後は造船所跡地として利用されてきた。現在は、この地区の一部が、ユニバーサルスタジオジャパンやウォーターワールドなどのテーマパークや商業施設として利用されている。写真は、この地区の様子を捉えている。



7、综上所述，由于日本大城市大多位于沿海地区，所以迄今为止，日本大城市的发展事实上就是沿海地区改革的产物。从17世纪到18世纪，日本通过工程技术的改革，使得浅海地区水田化。而19世纪后半叶到20世纪，产业改革又使得城市发展为工业生产的中心。20世纪至21世纪期间，在充分利用产业改革成果后，工厂设施减少，休闲设施增加，服务业得到了进一步发展。从17世纪起的一系列变革使得日本的大城市完成了从工业生产的中心到以服务和消费为主的功能转换。

文献

山本三生ほか編集『日本地理体系第七巻・近畿篇』改造社,1929

奥野一生著『新・日本のテーマパーク研究』竹林館,2008

帝国書院編集部編『地歴高等地図－現代世界とその歴史的背景－』帝国書院,2012

【日本語の原文】

1) 日本の大都市は河川河口の平野にある。大阪を例に、日本の都市の発展を陸域の拡大とその土地利用の変化からみてみよう。尚、海域との境界線を形成する陸域を沿岸域という。大阪（19世紀半ばまでは大坂）では、17世紀の初めまでは、陸地は狭かった。現在、USJ、海遊館（大型の水族館）のようなレジャー施設や工場のある場所は、海底だった。青い線が1704年時点の海岸線である。

2) 大坂では17世紀後半（黄線）から徐々に陸地を増やしていった。18世紀（緑線）、19世紀（青線）とみていくと、徐々に陸域が広がったことがわかる。米の生産を増やすために浅い海底を海水が少ないときに堤防で囲んで陸地化した。これを干拓事業という。この背景には、この時期に堤防建設のイノベーションがあった。

3) 19世紀の後半から、日本は工業生産のイノベーションが活発になる。例えば、現在の大阪市大正区の南部をみると、19世紀中には干拓が進み、水田が増えた。その後、水田を埋め立て、そこに製鉄や造船の工場を建設し、日

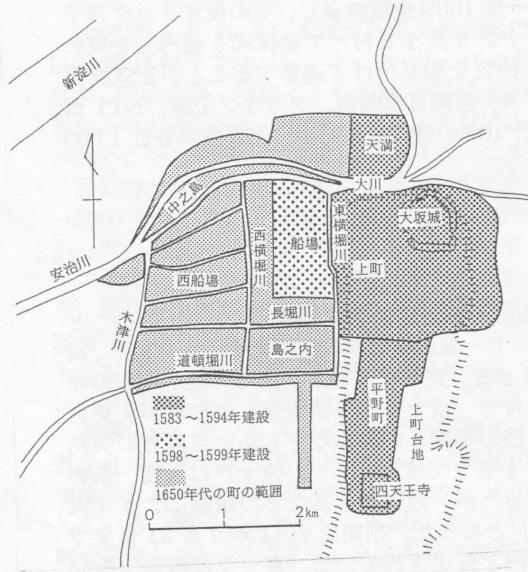
本の近代化の先進地域になった。

4) 現在、USJのある場所は、30年ほど前まで造船所や金属製造の工場地帯であった。地図と写真はさらに昔、1920~30年代のものである。この地域は日本の工業生産にとって必要不可欠の地域の一つであった。その後、20世紀の終わりごろから鉄鋼や造船の生産は減少する。その理由は、中国や韓国が生産を拡大したからである。

5) そこで日本では、サービスの生産に関するイノベーションが活発化する。それまで工場のあった場所にテーマパークを建設し、多くのお客さんに来てもらい、入場料やそこで商品を販売することによって工業生産を上回る収入を得ようとしたのである。

6) 写真は1930年代の大阪港の様子である。船に積んで来た荷物を保管するための倉庫が建並んでいる。その年代の地図を、現在のもの(2000年)と比較すると、貿易のための土地利用から、水族館(海遊館)や商業施設など、レジャーや買物のための場所へと変わったことがわかる。船舶による輸送方法のイノベーションの結果、港湾地域の土地利用が変化したのだ。

7) これまでの話をまとめておこう。日本の大都市は沿岸域にあるので、現在までの日本の都市の発展は沿岸域での様々なイノベーションの成果である。17世紀から18世紀には、土木技術のイノベーションによって、水深の浅い海底を水田化していった。19世紀の後半から20世紀には、産業のイノベーションによって、都市は工業生産の中心地となった。20世紀から21世紀にかけては、工場は減少し、代ってレジャー施設がつけられた。それらはこれまでの産業のイノベーションの成果を活用している。そして、サービスの生産に関する面のイノベーションも進展した。その結果、日本の大都市は、工業生産の中心地から、サービスの生産と消費のそれへと変化した。

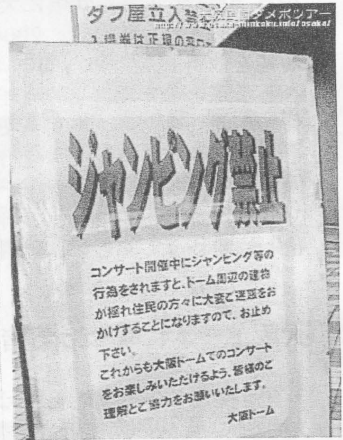


(地学団体研究会大阪支部, 1999:192.)
 地図は現代のものを使用している。
第1図 近世大阪の拡大

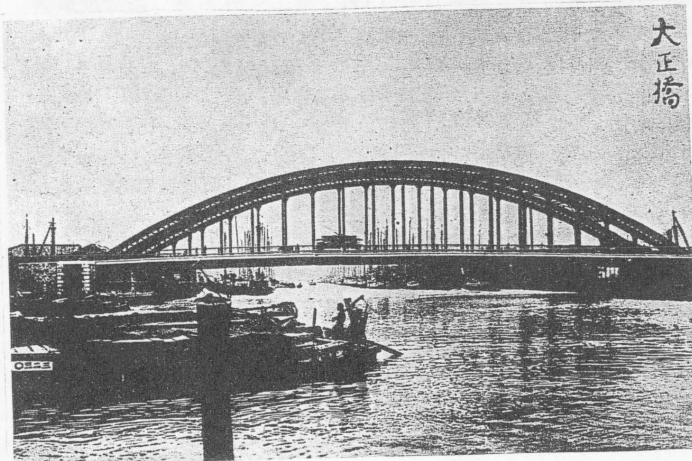
第1表 大阪市岩崎橋地区土地区画整理事業の経緯

年 月	事 項
平成2年1月	西尾市長がドーム建設構想を初めて発表
平成3年8月	大阪市の多目的ドーム施設検討委員会の発令(岩崎橋に決定)
平成3年10月	地域創生総合都市開発事業推進に専断
平成3年12月	岩崎橋地区開発協議会設立(現在大阪ドームシティ開発協議会)
平成4年1月	第1次ドーム構想決定
平成4年4月	多目的ドームの企画・設計・施工誘導競技公募開始
平成4年10月	区画整理組合設立準備会発足
平成5年1月	大阪ドーム2段階建築競技により最優秀作2案決定
平成5年3月	岩崎橋地区区画整理事業の都市計画決定
平成5年5月	土地区画整理組合認可
平成5年8月	仮換地指定
平成5年8月	地下鉄鶴見線地線暫工
平成5年9月	用途地域の変更及び地区計画の都市計画決定
平成6年7月	大阪ドーム着工
平成7年3月	1ふるさとの脈づくりモデル土地区画整理事業)の建設省承認
平成7年7月	「前記み・まちづくり総合支援事業」採択についての建設省承認
平成8年2月	ガスビル完成
平成9年2月	大阪ドーム完成
平成9年2月	パドック完成
平成9年8月	地下鉄鶴見線地線開通
平成9年10月	都市景観大賞受賞(景観形成例部門「地区レベル」)
平成10年1月	換地計画認可
平成10年1月	換地処分公告
平成10年1月	土地・建物の登記開始
平成10年2月	清算金の徴収・交付
平成10年3月	組合換算認可

資料: <http://www.osaki-net.or.jp/~tifu/area/essai.htm>



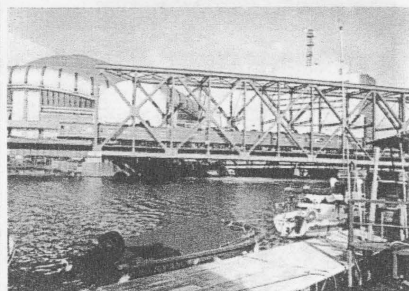
第2図 ジャンピング禁止の看板



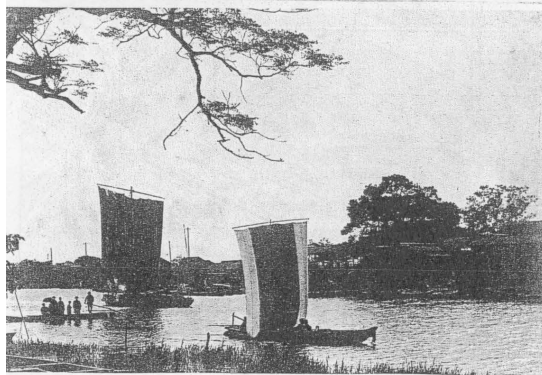
第3図 大正橋



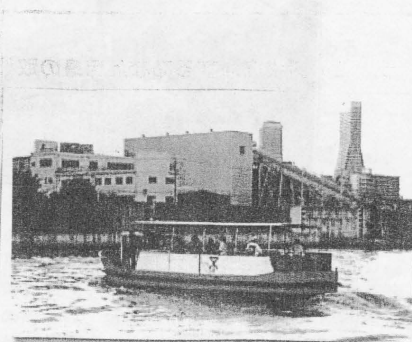
第4図 大阪臨港線の木津川鉄橋(1928年)



第5図 ドーム付近の大阪湾状鉄橋



第6図 尻無川の甚兵衛渡

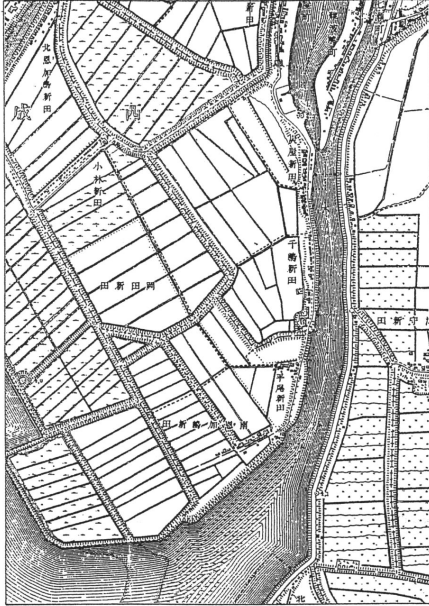


第7図 現在の尻無川の甚兵衛渡船

地理学習研究会編:高校地理作業ノート、清水書院

(3) 近世・新田

天保山 1 : 20,000



大阪西南 1 : 50,000



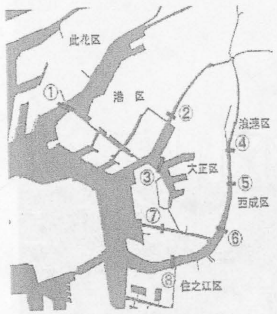
解説 江戸時代に農業土木技術の発達等によって
洪積台地・河岸段丘・湖沼・干潟がさかんに開拓
された。大阪湾は淀川・猪名川・武庫川が流れこ
み干潟が発達しやすく17世紀から干拓が進められ
た。上図の木津川河口部は主に19世紀に干拓され

たところである。

作業3. 左図の新田名に黄色の下線を引きなさい。

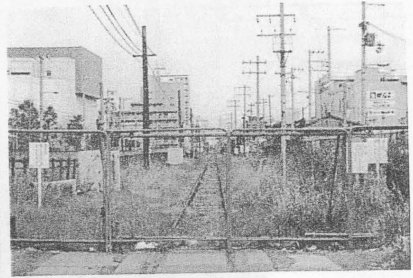
作業4. 左図の新田と同じ名前の地名を右図にさ
がし出しなさい。

気付いたこと、
調べてみよと秀記をよ。 (右念白に)

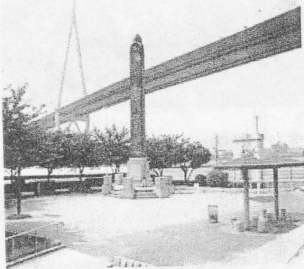


- ① 天保山(てんぱうざん)造船場
- ② 甚兵衛(じんべい)造船場
- ③ 千歳(ちとせ)造船場
- ④ 登倉上(おちあいかみ)造船場
- ⑤ 登倉下(おちあいしも)造船場
- ⑥ 千本松(せんぼんまつ)造船場
- ⑦ 船町(ふなまち)造船場
- ⑧ 木津川(きづがわ)造船場

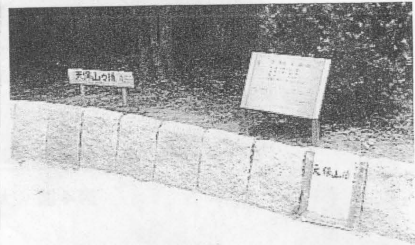
第8図 現在運行中の造船配置図



第9図 JR貨物大阪臨港棟跡



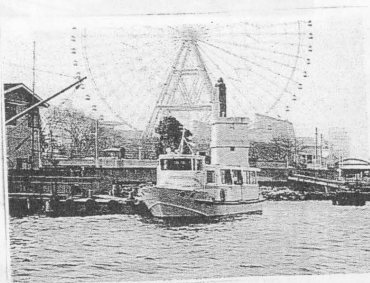
第10図 天保山公園 (大阪市港区)



<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A0%B4%E5%B8%B6%E5%B8%9F-%E6%96%B9>

第11図 天保山山頂標識

USJ開設前と後の天保山の位置



第12図 天保山渡船場

- ・港区築港三丁目2-25：地下鉄大阪港駅下車、北へ徒歩10分
- ・此花区桜島三丁目10-34：JRゆめ咲線桜島駅下車、南西へ徒歩10分

- ・Chikko 3-2-25, Minato-ku: Walk 10 minutes north, from Subway Osakako Station
- ・Sakurajima 3-10-34, Konohana-ku: Walk 10 minutes southwest, JR Yumesaki Line, Sakurajima Station.

図表説明

全てについて説明しているわけではない。

第1図 近世大阪の拡大

秀吉は他所から運んできた土砂で船場に城下町を造成し、徳川幕府は民間資本に頼って、有力町人に請け負わせて土地を造成し、大阪を拡大させていった(地学団体研究会大阪支部, 1999;193.)。

第1表 大阪市岩崎橋地区土地区画整理事業の経緯

大阪ガス株式会社(社長: 領木新一郎)と大阪ガス岩崎開発株式会社(社長: 北垣敏郎)が大阪ドームシティ(岩崎橋地区)に建設を進めてきたドームシティガスビルが、この地区の開発施設第1号として平成8年3月28日に竣工した。大阪ドームシティは、大阪ガスが明治38(1905)年の創業時に、岩崎町工場を建設した地区である。昭和39(1964)年に工場を廃止した後も、供給・営業・研究開発などの業務施設を設置し利用してきた。平成3年8月、大阪ドームがこの地区に建設されることが決定した後、ガス会社の業務施設を集約する計画を進め、平成6年4月、ドームシティガスビルの建設に着手した。竣工したドームシティガスビルは、オフィス棟とエネルギーセンター棟からなっている。オフィス棟は地上15階建てで、大阪支社・大阪供給部・大阪エネルギー営業部などが入居し、大阪市内の利用客への営業・保安の拠点となっている。

ドームがここにあるのは、大阪ガスが岩崎町に工場を建てたからで、この地区は明治38年に創業した。昭和39年に工場を廃止した後も、供給・営業・研究開発などの業務施設を設置し利用してきた。平成3年8月、大阪ドームがこの地区に建設されることが決定した後、ガス会社の業務施設を集約する計画を進め、平成6年4月、ドームシティガスビルの建設に着手した。竣工したドームシティガスビルは、オフィス棟とエネルギーセンター棟からなっている。オフィス棟は地上15階建てで、大阪支社・大阪供給部・大阪エネルギー営業部などが入居し、大阪市内の利用客への営業・保安の拠点となっている。

第2図 ジャンピング禁止の看板

人工地震が起るからジャンピング禁止。土台の弱い干拓地だったこの地域。コンサートでの観客が一斉にジャンピングすることで、あろうことか周辺に震度1~3程度の人工地震が発生し、周辺住民からジャンピングを伴うコンサートはやめるよう苦情が来た。このことで、GLAYをはじめとしたビッグアーティストのコンサートができなくなり、さらに収入源を減らしてしまった。

<http://www.osaka-minkoku.info/osaka/osaka01.htm>

第3図 大正橋

渡船を使わなければ市内中心部に行けなかった当時の地域住民の強い要望を受け、大正4年(1915)に初めて架橋された。当時、日本で最も長いアーチ橋だったこの橋を住民は誇りとし、昭和7年(1932)に大正区が港区から独立した際、この橋に因んで区名がつけられた。写真は、大正年間のもの(大阪城天守閣編, 2006;25.)。

第4図 大阪臨港線の木津川鉄橋(1928年)

淀川の一分流である木津川岸で、より下流と比べると人的活動が著しく発達している部分である。十分に水運の便によって倉庫や工場が発達している。左手には倉庫が並び、岸に船が着き、材木が上にも下にも一面に置かれている。遠くには煙突も見える。右手には人家と船とがある。中央には三艘のランチが上下している。正面の鉄橋は当時竣工間もない臨港鉄道のものである(山本三生ほか編, 1929;140.)。

第6図 尻無川の甚兵衛渡

尻無川を二艘の小型帆船が航行し、左に渡し船の一部が写っている明治期ごろの写真である。ここは幕末の連作錦絵『浪花百景』取上げられた渡しである(大阪城天守閣編, 2006;37.)。

第7図 現在の尻無川の甚兵衛渡船

大阪市で利用者が一番多い渡船である。大正区泉尾7丁目と港区福崎1丁目を結び(岸壁間94m)、朝のラッシュ時は学生の利用も多く、2隻の船が運航している。尻無川の堤は昔、紅葉の名所であった。「摂津名所図会大成(せつづめいしよずえたいせい)」に「この河の両堤に黄櫨(はぜ)の木を数千株うえ…紅葉の時節にいたりては川の兩岸一円の紅(くれない)にして川の面に映じて風景斜ならず河下に甚兵衛の小屋と茶店あり年久しき茅屋(ぼうおく)にして世に名高し」とある。この甚兵衛渡しの小屋は「蛤小屋(はまぐりごや)」と呼ばれて、名物のしじみ、はまぐりを賞味する人が絶えなかった。大正区側の「泉尾(いずお)」の町名は、元禄15年(1702年)に開発された「泉尾新田」によるが、その名称は開発者の出身地(和泉(いずみ)国蹺尾(つくの)村、現堺市津久野町)に由来している。

第9図 JR貨物大阪臨港線跡

現在、休止されているJR貨物大阪臨港線。線路はフェンスでふさがれ、踏切の標識はよそ向きになっている。

第10図 天保山公園 (大阪市港区)

画面中央の明治天皇行幸記念碑の横に天保山「山頂」の二等三角点。2005年7月16日。画面奥は阪神高速湾岸線天保山大橋。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%BB%E5%83%8F>

第11図 天保山山頂標識

天保2年から2年の歳月をかけて安治川を浚渫した土砂でできた山で、目標(めじるし)山ともいい、「摂津名所図会大成」(1793-1860)にも取上げられている。近年、国土地理院に「山」として認定され、「日本一低い山」として話題になった(大阪市建設局渡船事務所「渡船場マップ」)。

第12図 天保山渡船場

明治38年に開設され、天保山と対岸の桜島を結んでいる。岸壁間は400mである。

ウォーキングコース案内

- 1) 大阪ドームをまず大正駅に向かってスタートします。それから、川に並行して延びている広い道を30分ほど進み、途中右に曲がって川のほうに行くと、甚兵衛船渡場に到着します。
- 2) 船渡場から船(約15分に1本の割合。無料)に乗り、大正区から隣の港区に向かいます。ちなみに、この船は地元の人の足として多くの人利用し、このような船渡しは、ここ以外に大阪のいくつかの場所で見受けられます。
- 3) 港区のほうの船渡場に到着して5分ほど川から離れるように歩いていくと、旧貨物線跡が見られます。昔は多くの列車が走っていましたが、今ではもう使われていません。輸送の主役は飛行機やトラックになり、貨物列車の利用は激減したのです。
- 4) ここから、さらに歩いていくと港大通りという通りに出ます。その通りを徒歩で40分ぐらい歩いていくと(市バス利用が便利)、最終目的地の天保山に着きます。この山は日本で一番低い山として知られています。

付記

本資料作成にあたり、奈良県立大学小松原ゼミ学生、荒川秀樹、村本裕哉両君の協力を得た。

文献

大阪城天守閣編。2006。おおさか水辺の風景。大阪城天守閣特別事業委員会。
山本三生ほか編。1929。日本地理大系第七巻近畿篇。改造社。
三木理史。2003。水の都と都市交通 - 大阪の20世紀 -。成山堂書店。
地学団体研究会大阪支部。1999。大地のおいたち - 神戸・大阪・奈良・和歌山の自然と人類 -。築地書館。

出席者 何佳寧、川崎瑠美、関英恵、引率教員:小松原 尚



JR 桜島駅 9時20分集合
 コースの概要の確認
 港湾地帯なので大型車両も通過するゆえ、
 安全に十分注意
 徒歩にて天保山渡船場まで移動
 ここは道路の一部であることを説明



天保山登山
 「登山」という言葉に緊張したが、
 足元に山頂があることに驚く



サントリーミュージアムへ
 周辺の施設配置を確認
 港湾地帯のリニューアルの状況を
 観察する。
 その後、ポスター芸術鑑賞
 19世紀後半からの産業社会の形成を
 ポスターの変化から観察する。

入館料 500円

テーマ	大阪港湾域の今昔を観察するツアー		
参加者	【基礎ゼミ】伊藤、北野、田中、平松、丸尾【専門ゼミ】松尾【引率教員】小松原		
年月日	2011年4月23日	場所	大阪市此花区桜島、同港区天保山

① JR 桜島駅構内



② 天保山渡船場



③ 渡船の船内



④ 天保山山頂



⑤ 天保山埠頭再開発地区



⑥ 大阪市営地下鉄大阪港駅



集合場所は JR 桜島駅、駅構内には次の立寄り地点の天保山渡船場までのコースの示されている地図が掲示してあった。ツアーコースについては事前に要項を配布し、確認している。その点を学生同士掲示の地図を使って確認した (①)。渡船場に着き、船の待ち時間に対岸の天保山地区の再開発の様子を観察する (②)。あいにく天候悪しく乗船者はわれわれの他は1名のみ、ほとんど貸切状態であった (③)。3分程で対岸に到着、地図上に三角点と地名に「山」をもつもので最も低位の天保山へ、程なく山頂に到着した (④)。埠頭城の再開発部分を見学する (⑤)。かつての海運の物流拠点が文化・宿泊系の用地利用に転換を図ったことを確認する。ただ、美術館は入館者が伸び悩み、昨年末に閉館に至ったことも説明した。再開発の困難さの一面を垣間見ることにもなった。その後、みなと通りを解散地点の⑥まで歩いた。定期通り終了できた。

テーマ	大阪バイエリア 産業立地セミナー／現地見学会		
日時	2012年03月23日(金)	場所	大阪府咲洲庁舎 45階～臨海部
① 参加者の一部、咲洲庁舎 45階	② 咲洲庁舎 45階からみる ATC と O's 岸壁		
			
③ 咲洲庁舎 45階からみる夢洲、舞洲	④ 見学バスの車内		
			
⑤ 夢洲の造成地	⑥ 夢舞大橋を渡り、舞洲へ		
			

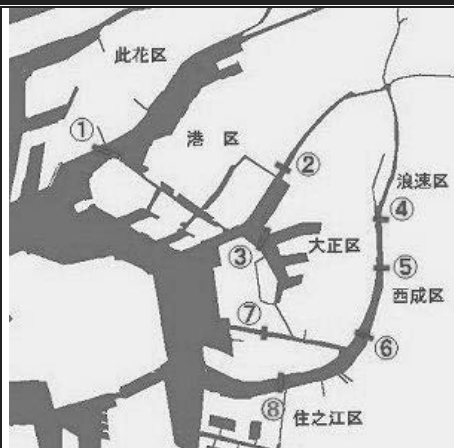
第一部のセミナーを終え、第二部の現地見学会に移った。まず、咲洲庁舎の45階に上がり、担当者の説明を受けた(①)。庁舎の足下には物販や娯楽施設群が見えた。このあたりはバイエリア開発の先行地区である(②)。また、このフロアからは後程見学の咲洲、舞洲の両地区も遠望できた。写真右に夢舞大橋がかすかに見えた(③)。参加者は全体で150人程、大型バス3台に分乗した。車内のディスプレイでは、夢洲完成時を想定したCG画像が流された(④)。夢洲は、咲洲との対岸部分はコンテナ岸壁として、供用されているものの、大半は、今後の開発と分譲に委ねられている。⑤はその敷地内である。コンテナ用のクレーン群を遠望でき、左端には③でもふれた夢舞大橋がみえる。その夢舞大橋は緊急時は90度回転し、大型船舶の通路も確保できるように設計された可動橋である(⑥)。

テーマ	「土曜日の研究」大阪編 3回目、大阪市大正区、住之江区、西成区		
日時	平成24年5月26日【土】13時出発		
場所	JR 大正駅集合・解散、大阪の渡船巡り		
①大正郵便局前	②千歳渡船場		
			
③船町渡船場待合所	④日立造船港工場前		
			
⑤千本松渡船	⑥落合下乗船		
			

【参加学生】橋爪浩平(村田ゼミ4年)、竹本泰隆(小松原ゼミ4年)、松井明子、吉川彩香(以上2名、小松原ゼミ3年)

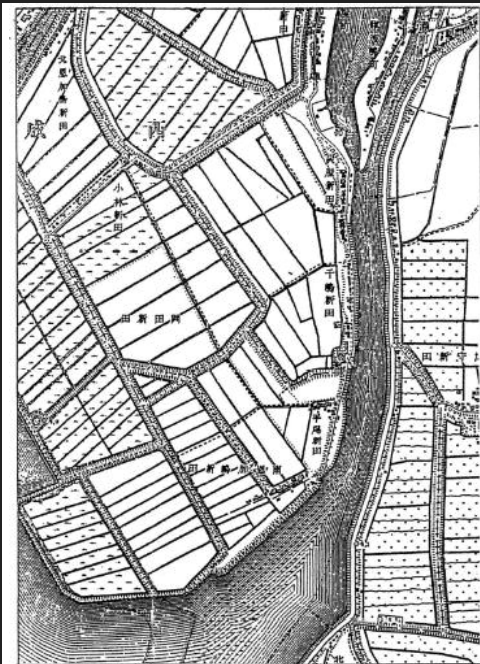
【引率教員】小松原尚

【フィールドツアーの概要】JR 大正駅より大正通を南行、大正郵便局前(①)で位置確認する。最初の渡船場である「千歳」(②)に到着する。橋も併用されており、橋爪君はそちらを利用する。眺望が良かったとのことであった。この情報をもとに「実習」では、ここは橋を渡ることになる。工場街への通路でもある船町渡船場(③)から、日立造船(④)や中山製鋼所の脇を通過する。木津川渡船を利用し、住之江区、西成区へと移動する。千本松渡船(⑤)や落合下渡船(⑥)、落合上渡船を利用し、大正区へと戻った。



1. 天保山(てんぼうざん)渡船場
2. 甚兵衛(じんべえ)渡船場
3. 千歳(ちとせ)渡船場
4. 落合上(おちあいかみ)渡船場
5. 落合下(おちあいしも)渡船場
6. 千本松(せんぼんまつ)渡船場
7. 船町(ふなまち)渡船場
8. 木津川(きづがわ)渡船場

<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000011244.html>



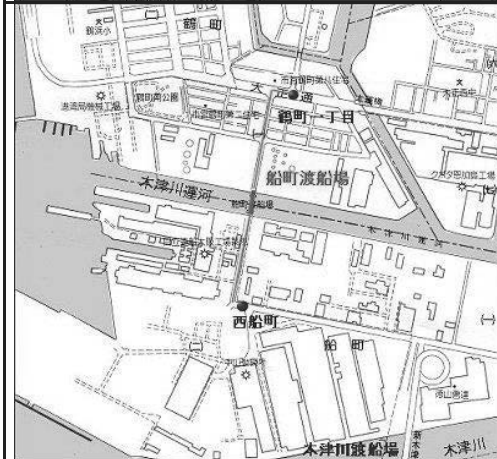
5/26(土)13時に JR 大正駅集合、まちゼミ
 Date: Thu, 17 May 2012 14:25:22 +0900
 まちゼミの皆さん
 小松原です。
 小松原の専門ゼミ3年生、4年生を中心にして以下の要領で、フィールドツアーを実施します。
 今回は、大阪の渡船巡りです。船賃は無料です。
 5/26(土)13時に JR 大正駅集合、終了は18時を予定しています。

水都大阪の、今までとは異なった側面を体験できるでしょう。
 大正区内を歩きます。人口の25%が、沖縄出身者・関係者という土地柄でもあります。
 大阪の旧開の工場地帯ともいえます。
 また、様々な映画のロケ地にもなりました。



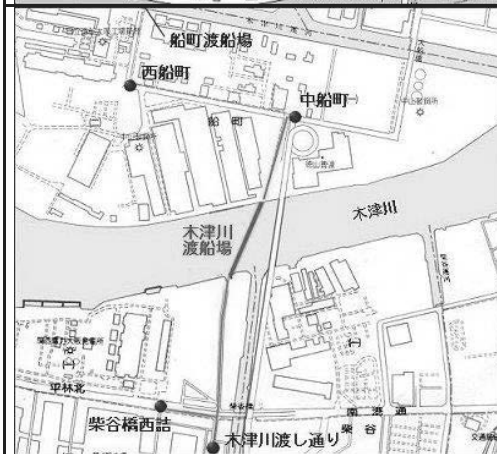
◆千歳（ちとせ）渡船場◆大阪港復興事業の一つとして大正区の内港化工事を行った際、既設の千歳橋が撤去され、その代わりに施設として設けられた。昭和30年7月にそれまでの民営から港湾局の所管とし（同32年6月直営化）、同39年建設局に移管された。大正区鶴町三丁目と同区北恩加島二丁目（岸壁間371メートル）間を運航している。平成20年度現在1日平均約750人が利用している。◆大正区北恩加島二丁目5-25：地下鉄、JR大正駅から市バス98、98A、108系統「新千歳」下車、南西へ徒歩10分◆大正区鶴町四丁目1-69：地下鉄、JR大正駅から市バス「鶴町四丁目」行き「鶴町四丁目」下車、北東へ徒歩5分

<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000011253.html>



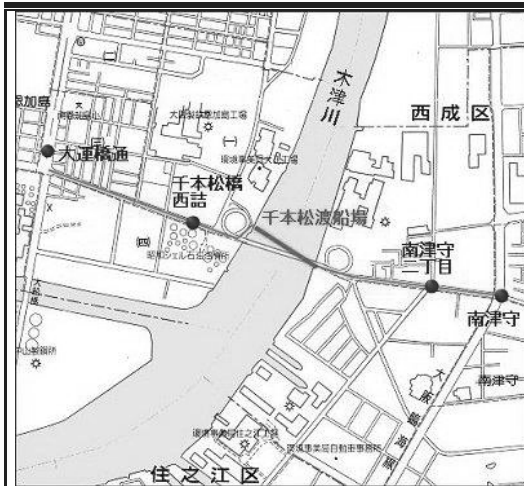
◆船町渡船場◆大正区鶴町1丁目と同区船町1丁目を結ぶ（岸壁間75メートル）。平成20年度現在、1日平均約210人程度が利用している。昭和20年代後半から30年代にかけて、川幅が狭いことを利用して対岸まで船を連れ、その上に板を敷いて人や自転車が通行していた。◆大正区鶴町1丁目16-61：地下鉄、JR大正駅から市バス「鶴町四丁目」行き「鶴町1丁目」下車、南へ徒歩4分。◆大正区船町1丁目3-117：地下鉄、JR大正駅から市バス70、70A系統「西船町」行き「西船町」下車、北へ徒歩4分。

<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000011260.html>



◆木津川渡船場◆大正区船町1丁目と住之江区平林北1丁目を結ぶ（岸壁間238メートル）唯一の港湾局管理の渡船である。昭和30年12月からカーフェリー（「松丸」134トン）が運航していた。乗用車から大型トラックまで運搬し得る能力を持っていたが、上流部に千本松大橋が開通した昭和48年の翌年からカーフェリーは廃止され、人と自転車のみを運ぶ渡船となった。利用者は大正区の工場に通う人や住之江区の木材関係で働く人がほとんどである。水がきれいになったためか、渡り鳥が飛来する姿が見られる。平成20年度現在1日平均約180人が利用している。◆大正区船町1丁目1-4：地下鉄、JR大正駅から市バス70、70A、系統「西船町」行き「中船町」下車、南へ徒歩4分◆住之江区平林北1丁目1：ニュートラム「平林」から市バス49系統「平林北1丁目」行き「木津川渡し通」下車、北へ徒歩8分

<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000011261.html>



◆千本松（せんぼんまつ）渡船場◆大正区南恵加島1丁目と西成区南津守二丁目を結ぶ（岸壁間230メートル）。このあたりは木津川の川尻に近く、江戸時代には諸国廻船の出入りの激しいところであった。幕府は、舟運の安全のため水深を確保し、また防波堤のとしても役立つよう、天保3年（1832）ここに大規模な石の堤を築いた。千本松の名は、この堤防の上に植えられた松並木に由来する。千本松の渡しが設けられた年代ははっきりしないが、大正時代の頃頭に初めて設けられたものと思われる。昭和48年に千本松大橋が完成し、それとともに渡りは廃止されることになっていたが、地元住民の強い要望によって存続することになり、現在も通勤通学の貴重な足として利用されている。平成20年度現在1日平均約1190人が利用している。

◆大正区南恵加島一丁目11-1：地下鉄、JR大正駅から市バス「鶴町四丁目」行き「大運橋通」下車、東へ徒歩9分。又は76系統「地下鉄住江公園」行き「千本松橋西詰」下車、東へ徒歩2分。

◆西成区南津守二丁目4-88：あべの橋から市バス7系統「住吉川西」行き、なんばバスターミナルから29系統「南津守」下車、西へ徒歩8分。又は地下鉄住之江公園から市バス76系統「南津守二丁目」下車、西へ徒歩5分。

<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000011258.html>



◆落合下渡船場◆大正区平尾一丁目と西成区津守二丁目を結ぶ（岸壁間138メートル）。毎年10月下旬から翌年4月下旬にかけて、数百羽のユリカモが飛来する。

<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000011256.html>



◆落合上渡船場◆大正区千島1丁目と西成区北津守四丁目を結ぶ（岸壁間100メートル）。平成20年度現在、1日平均540人が利用している。上流にある木津川水門（防潮）が毎月1回程度開閉試験運転のため閉まっているのが見られる。



テーマ	土曜日の研究・大阪まち歩きツアー第1回「阪神なんば線開通3周年記念ハイキング/阪神なんば線沿線橋めぐり」		
日時	平成24年4月14日〔土〕	場所	大阪難波駅から西九条駅まで

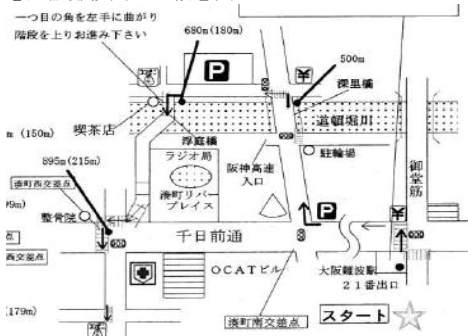
①大日本印刷 ddd ギャラリー「田中一光展」鑑賞



②リバープレイスより浮庭橋を眺める



③大阪難波周辺の概念図



④安政大津波の碑文で水難の怖さを再認識



⑤浄土宗和光寺



⑥安治川川底トンネル



◆コース

難波駅 → 深見橋 → ddd ギャラリー → 浮庭橋 → 汐見橋 → 日吉橋 → 安政大津波の碑 → 大正橋 → 岩松橋 → 千代崎橋 → 和光寺 → 伯楽橋 → キララ九条商店街 → 安治川トンネル → 西九条駅
 ◆鉄道会社（近鉄）の企画を利用してみた。鉄道会社は沿線に利用者を増やすために様々な工夫をしている。土曜日におけるこうした企画もその一環として位置付けられる。どんな人々が参加しているのか、コースにかかる地域の特徴は、など皆さんそれぞれの視点で観察してみる。新線開通後の街の変化や川沿いの景観を観察した。

◆参加者：丹野麻衣（小松原ゼミ4年）、中嶋千尋（安村ゼミ4年）

【コース】JR 桜ノ宮駅…源八橋…彫刻の小径…桜宮橋…天満橋…天神橋…大阪会議開催の地碑…ライオン橋…中之島地区…肥後橋…肥後橋商店街…筑前橋…田蓑橋…玉江橋…JR 新福島駅 ※徒歩約7キロ

テーマ	「水都・大阪の今昔を訪ねて」・「土曜日の研究」大阪編第2回	
日時	平成24年4月28日(土) 午前10時から午後12時50分	場所
		JR 大阪環状線・桜ノ宮駅西口 JR 東西線・新福島駅散

風に吹かれてそぞろ歩く

拡大図①
源八橋の彫刻
天満橋の彫刻
天神橋の彫刻
ライオン橋の彫刻
中之島地区の歴史

拡大図②
肥後橋の商店街
筑前橋の田蓑橋
玉江橋の玉江橋

拡大図③
JR 新福島駅
中之島地区の歴史

拡大図④
JR 桜ノ宮駅
中之島地区の歴史

拡大図⑤
中之島地区の歴史

拡大図⑥
中之島地区の歴史

拡大図⑦
中之島地区の歴史

拡大図⑧
中之島地区の歴史

拡大図⑨
中之島地区の歴史

拡大図⑩
中之島地区の歴史

拡大図⑪
中之島地区の歴史

拡大図⑫
中之島地区の歴史

拡大図⑬
中之島地区の歴史

拡大図⑭
中之島地区の歴史

拡大図⑮
中之島地区の歴史

拡大図⑯
中之島地区の歴史

拡大図⑰
中之島地区の歴史

拡大図⑱
中之島地区の歴史

拡大図⑲
中之島地区の歴史

拡大図⑳
中之島地区の歴史

拡大図㉑
中之島地区の歴史

拡大図㉒
中之島地区の歴史

拡大図㉓
中之島地区の歴史

拡大図㉔
中之島地区の歴史

拡大図㉕
中之島地区の歴史

拡大図㉖
中之島地区の歴史

拡大図㉗
中之島地区の歴史

拡大図㉘
中之島地区の歴史

拡大図㉙
中之島地区の歴史

拡大図㉚
中之島地区の歴史

拡大図㉛
中之島地区の歴史

拡大図㉜
中之島地区の歴史

拡大図㉝
中之島地区の歴史

拡大図㉞
中之島地区の歴史

拡大図㉟
中之島地区の歴史

拡大図㊱
中之島地区の歴史

拡大図㊲
中之島地区の歴史

拡大図㊳
中之島地区の歴史

拡大図㊴
中之島地区の歴史

拡大図㊵
中之島地区の歴史

拡大図㊶
中之島地区の歴史

拡大図㊷
中之島地区の歴史

拡大図㊸
中之島地区の歴史

拡大図㊹
中之島地区の歴史

拡大図㊺
中之島地区の歴史

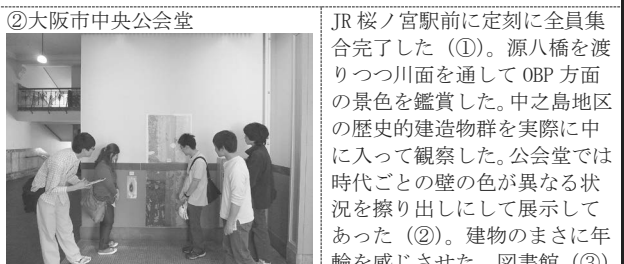
拡大図㊻
中之島地区の歴史

拡大図㊼
中之島地区の歴史

拡大図㊽
中之島地区の歴史

拡大図㊾
中之島地区の歴史

拡大図㊿
中之島地区の歴史



【参加学生】竹本泰隆（小松原ゼミ4年）、吉川彩香（小松原ゼミ3年）
荒谷弘之、池田恵充、堀考助（以上3名は2年）【引率教員】小松原尚

春近し。洛東のタイムトラベル 京都における明治の足跡—近代の胎動—

実施日：2010年2月6日土曜日

集合時間：午前10時15分

集合場所：京阪電鉄出町柳駅今出川口改札口を出た所

解散時間：午後12時30分

解散場所：地下鉄「蹴上」駅

内 容：1. 写真展鑑賞
2. 琵琶湖疎水エクスカージョン

1. 写真展鑑賞

ツイン・タイム・トラベル イザベラ・バードの旅の世界

<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/modules/special/content0008.html>

開催期間：2010年01月13日—2010年03月28日

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館

TEL：075-753-3272,3273,3274 FAX：075-753-3277 info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp

イザベラ・バードは、英国「王立地理学協会最初の女性特別会員」の榮譽を得た、史上屈指の旅行家です。本写真展では、地理学者 金坂清則（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）が20年をかけて撮影した写真から選んだ100点を、バードの写真や銅版画、記述と対比することで、彼女の旅の世界をたどりながら、1世紀を隔てた風景を「持続と変化」という視点から理解する面白さを伝えている。ツイン・タイム・トラベルという新しい旅の形を、是非体感して欲しい。

写真展においては写真の下の文章を読みながら鑑賞することによってツイン・タイム・トラベルという考え方の面白さを味わえ、銅版画と白黒写真（バードのもの）とも対比することによって一層その楽しみは大きくなる。

また、100点の写真はバードの50年にわたる旅の展開・流れに沿って展示してあるので、1番から順番に見ていくと面白いので、それが望ましい。

そして会場入口に置いてある **visiting book** に名前だけでなく最後に全体の印象を書き、また会場に置いてあるアンケート用紙に記入して箱に入れておく。好きな写真が人によってどのように異なるのか、これまでこの博物館に来たことなかった人がどれだけ来てくださったかなどについて分析する主旨なので協力されたい。

2. 琵琶湖疎水エクスカージョン

□琵琶湖疎水記念館 □インクライン □水路閣 □発電所

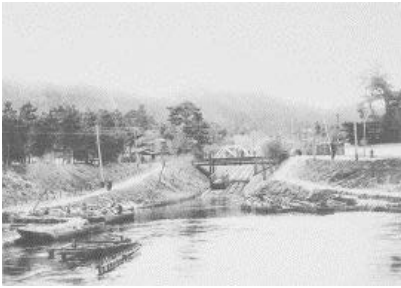


写真1 インクライン遠景



写真2 インクライン近景

『京都名所帖』(明治40年6月刊)より

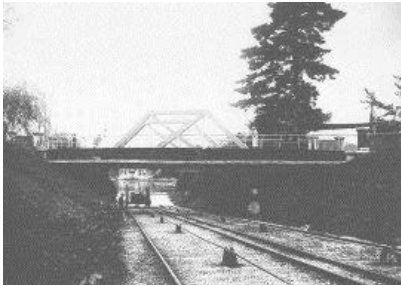


写真3 舟台を引くワイヤ



写真4 南禅寺水路閣

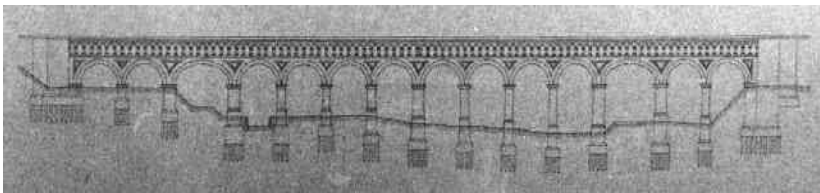


写真5 南禅寺水路閣設計図

■インクライン (①より引用)

写真1から3は、『京都名所帖』(1906年)に掲載された京都盆地の東端、蹴上(けあげ、京都市東山区)のインクライン。“京都の名所”といえ、神社仏閣のイメージが強い。『京都名所帖』『京都名勝』など、明治の写真帳を眺めていても、八坂神社、清水寺など、由緒ある古い寺社が目立つ。そのなかで1890(明治23)年完工のインクラインは、「新しい」京都名所として異彩を放っている。

「インクライン」は傾斜鉄道とも呼ばれ、運河や山腹など、傾斜となった路面で貨物を運搬するためのレールや機械を指す。この京都のインクラインも、水力発電を利用した、

舟を運ぶための鉄道であった。写真の中央に目を凝らすと、レールとその上にのった台車が見える。この台車が舟を乗せる舟台である。

インクラインと琵琶湖疏水なぞ舟を運ぶための鉄道が必要になったのか。このインクラインは、琵琶湖の水を京都に引き込む疏水工事（1885～1890年）の一環としてつくられた。全長は587m。疏水工事以前、京都と大津の間の輸送は人馬に頼っており、大規模な輸送を行うことは難しかった。琵琶湖疏水工事によって水路を開き、舟運による輸送を可能にすることが、遷都後の京都を発展させる道であると期待されていた。

この疏水事業は、琵琶湖から京都市内まで、山々を貫いて20kmを水路で結ぶという壮大な工事であっただけでなく、舟運の向上、水道用水の確保、灌漑、発電などを目的とする総合開発事業でもあった。疏水は、琵琶湖のある大津にはじまって、長等山などに掘られたトンネルを抜け、さらに山麓をめぐって蹴上に出る。この蹴上から、インクラインを利用して高さ35メートルの急勾配を下り、鴨川経由で京都市の中心部に入っていく。舟は自力では急な傾斜を下れないから、この勾配を下るために舟を運ぶ鉄道（インクライン）が必要になったのである。

「船頭なくして舟山に上るの奇観は此処に見ることを得べし、物質的文明の進歩驚くに堪えたり、疏水工事中最（も）人目を惹くもの亦之れなり」という写真に付されたキャプションからは、インクラインを見た当時の人々の驚きが伝わってくる。疏水工事の構想は江戸時代にもあったが、125万円余という、当時としては破格の支出を乗り越えて工事を推進したのは、第3代京都府知事・北垣国道（1836～1916）であった。

一方、北垣知事に見出されて工事を任されたのが、土木技術者・田辺朔郎（1861～1944）である。1883（明治16）年、京都府御用掛に採用されたとき、田辺は弱冠21歳。構想の原型は、工部大学校の卒業論文「琵琶湖疏水工事の計画」にあったといい、その早熟さに驚かされる。1888（明治21）年にアスペン（Aspen：アメリカ合衆国）で世界初の水力発電が成功すると、田辺は早速視察に訪れている。琵琶湖疏水工事での水力発電の採用を決めたのも田辺の影響が大きい。ここに蹴上において、日本初の水力発電所が営業を始めることになる。

■水路閣（②より引用）

この疏水事業の一環として施工された水路橋で、延長93.17メートル、幅4.06メートル、水路幅2.42メートル、煉瓦造、アーチ構造の優れたデザインを持ち、京都を代表する景観の一つとなっている（写真4、5）。

西欧技術が導入されて間もない当時、日本人のみの手で設計、施工されたもので、土木技術史上、極めて貴重なものであり、1983（昭和58）年7月1日に「疏水運河のうち水路閣及びインクライン」として京都市指定史跡に指定された。

また、1996（平成8）年6月には、この水路閣、インクラインに加え、第1疏水の第1・第2・第3隧道の各出入口、第1堅坑、第2堅坑、1903（明治36）年に架設された日本初の鉄筋コンクリート橋（日ノ岡第11号橋）、同37年架設の山ノ谷橋などが日本を代表する近代化遺産として国の史跡に指定された。

引用 Web サイト

①京都インクラインと琵琶湖疏水（最終参照日：2010年1月31日）

http://www.ndl.go.jp/scenery/kansai/column/kyoto_incline_and_lake_biwa_canal.html

<http://www.ndl.go.jp/scenery/kansai/data/140/index.html>

②琵琶湖疏水 水路閣 インクライン（最終参照日：2010年1月31日）

<http://www.kasen.net/@6/yodo/sosui/keage/>

参加者 竹本、丹野、東、藤本

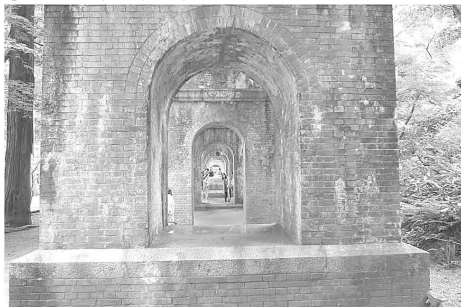
① 京阪神宮丸太町駅にて



② 琵琶湖疏水夷川発電所上流、北垣国道像



③ 水路閣、南禅寺境内



④ 立命館大学マッピングライブラリー (1)



⑤ 立命館大学マッピングライブラリー (2)



⑥ 立命館大学マッピングライブラリー (3)

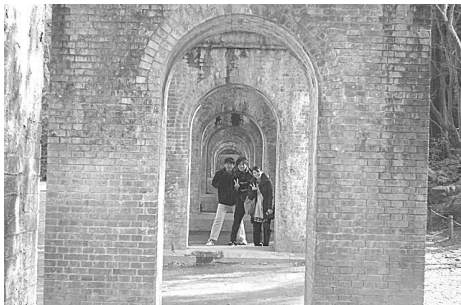


新緑の木々も瑞々しい京都、洛東から洛西への横断ツアーを実施した。ツアーのテーマは「首都機能移転後の京都の産業再生を疎水景観から観る」とした。洛東の見学地は琵琶湖疏水とその記念館である。ツアーは京阪神宮丸太町駅に集合した。改札口付近の案内図でコースの再確認をした(①)。駅から疏水沿いに記念館まで歩いて行った。途中に水路式の夷川発電所の外観を観察し、対岸に設置された北垣国道の銅像を眺めた(②)。琵琶湖疏水記念館発行の案内によれば、第3代京都府知事となった北垣は「明治維新による東京遷都により衰退した京都に活力を呼び戻すため」疎水建設を構想し、疎水の水力と用水、舟運による産業再生を企図したようである。記念館を見学の後、南禅寺境内の水路閣を見学した(③)。この構造物は疏水の水を北部へ遡上させるための通水路である。1996年に国の史跡に指定されている。次に市営地下鉄線を利用して、蹴上駅から東西線で西大路御池まで移動、市バスに乗り換えて、立命館大学の衣笠キャンパスを訪れた。学内を散策しつつ、文学部のある清心館を目指した。その2階にマッピングライブラリーが置かれている。当日は、実習助手をしておられる渡邊泰崇さんから直接収蔵品についての説明を受けた(④⑤⑥)。明治時代以降の地形図をはじめ様々な地図資料が架蔵されており、実際に手にとってみる事ができるのが魅力である。参加者は自分の出身地の地形図を時系列的に比較しながら変化を確かめていた。予定時間を超過してさらに見入ってしまった。再訪希望も出た。

① 京阪線神宮丸太町駅



② 南禅寺水路閣



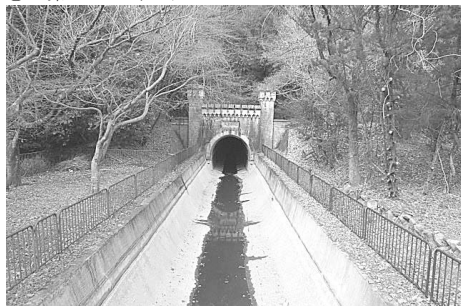
③ 京都市営地下鉄御陵駅



④ 日ノ岡第11号橋



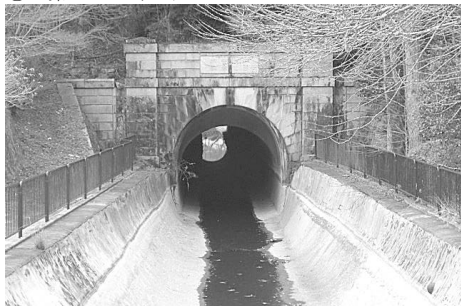
⑤ 第3トンネル入口



⑥ 第2トンネル出口



⑦ 第2トンネル入口



⑧ 山ノ谷橋



⑨ 山科旧東海道井元邸



⑩ ラクト山科「東東来」



午前9時に京阪線神宮丸太町駅に集合。改札口を出、案内図で疏水沿いのツアーコースを確認した(①)。東山の琵琶湖疏水記念館やに立寄り、改めて疏水の意義を確認した。明治維新以後の首都機能の江戸・東京への移転に直面した京都において、工業生産機能の強化、生活用水の確保のためのインフラ整備の一環としての疏水建設の様子がジオラマで展示されていた。記念館を後にし、南禅寺水路閣を見学した(②)。地下鉄山科駅から御陵駅へ移動し(③)、駅から徒歩10分余りで疏水の山科区間の施設に到着した。日本最古のコンクリート橋(④)や琵琶湖からの水を通すトンネルの出入口(⑤、⑥、⑦)や流路に架かる橋(⑧)を見学をした。その後、天智陵の東側を通り鉄道線の方へ下った。東海道線のガードをくぐると旧東海道の風情を楽しめる通りになっており、「もてなすくん」の歓迎を受けた(⑨)。「山科駅」前で解散の後、ラクト山科「東東来」で昼食(⑩)、館内で2次解散した。

テーマ	初夏の琵琶湖疏水の見学と大学の広報活動		
日時	2013年6月8日午前8時20分集合	場所	南禅寺水路閣、疏水鴨東運河、みやこめっせ

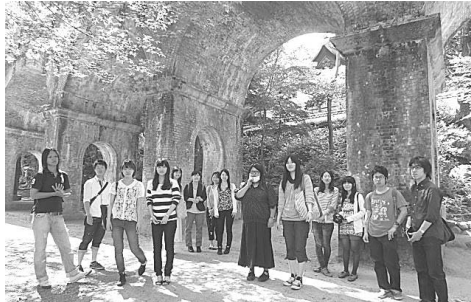
① 京都駅西口みどりの窓口付近に集合



② 蹴上に到着



③ 南禅寺の水路閣



④ 琵琶湖疏水記念館



⑤ 模擬授業の教室風景



⑥ ご当地・岡崎を素材にした講義



研究室活動の一環でもあった。3年生が6人、4年生が5人、小松原のゼミ生の他には、体験実習履修者4名の参加も得た。総勢15名の活動となった。京都駅(①)から地下鉄で蹴上まで移動(②)、徒歩にて南禅寺水路閣へ(③)、そして記念館では展示を見学し(④)、明治維新後の日本の近代化の中、大学生が卒論を疏水に結実させた情熱を感じたと思う。さらに疏水鴨東運河沿いに、京都市勧業館「みやこめっせ」まで景観観察を実施した。その後、高校生への大学による広報活動の1つである「夢ナビ」のイベントを見学した(⑤)。30分間の小松原の講義では、岡崎の土地利用の変遷と京都の近代化と疏水との関わりをセットで話した(⑥)。会場にて現地解散、一連の行事終了は午後1時頃であった。写真は、①～④は小松原の撮影、⑤と⑥は、FROMPAGEより提供のものを使用した。

訪問地 菊正宗酒造記念館 <http://www.kikumasamune.co.jp/kinenkan/>



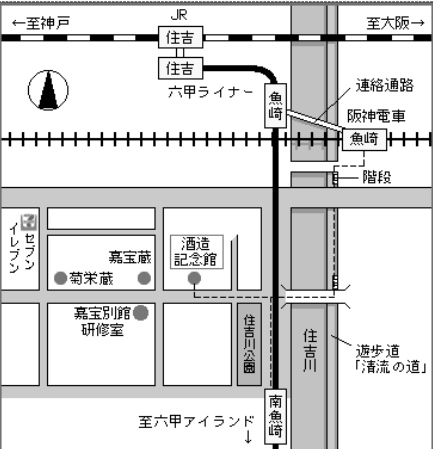
□旧酒造記念館は、1659年(万治2)に神戸・御影の本嘉納家本宅屋敷内に建てられた酒蔵を、昭和35年に現在の地に移築し、酒造記念館として保存・一般開放していたもの。
 □館内には、国指定・重要有形民俗文化財「灘の酒造用具」や所蔵する小道具類を展示。酒造りの歴史を今日に伝える資料館として、年間5万人の来館者。
 □平成7年1月17日、旧酒造記念館は阪神淡路大震災によって倒壊。ただ不幸中の幸いとして、收藏の酒造用具や小道具類は、がれきの下から一点一点丁寧に手作業で拾い出す。
 □全面建て替え工事の末、4年後の平成11年1月25日に復興オープン。

- 開館時間：午前9時30分～午後4時30分
(団体のお客様はご予約下さい)
- 休館日：年末年始(本年度の場合は12月31日から1月3日)
- 入館無料

菊正宗酒造記念館
 〒658-0026 神戸市東灘区魚崎西町1-9-1
 TEL. 078-854-1029 FAX. 078-854-1028



長屋門(記念館入口)



●電車でお越しの場合の最寄り駅
 ◎JRご利用の場合
 「住吉駅」より六甲ライナーに乗換、「南魚崎駅」(2駅目、約4分)下車。エレベーター1階より北西へ徒歩2分
 ◎阪神電車ご利用の場合
 阪神「魚崎駅」下車。住吉川沿いの遊歩道“清流の道”を南へ徒歩10分。

- 乗車時間(乗り換え時間は含みません)
 ◎大阪方面より
 [JR] 大阪駅～住吉駅 約30分
 [阪神] 梅田駅～魚崎駅 約35分
 ◎神戸方面より
 [JR] 三ノ宮駅～住吉駅 約8分
 [阪神] 三宮駅～魚崎駅 約10分

訪問地 **櫻正宗記念館** http://www.sakuramasamune.co.jp/sakuraen/sakuraen_index.html



灘五郷の中心「魚崎郷」に震災の試練を乗り越え、正宗名発祥のアイデンティティを後世に遺すべく、また魚崎郷地区の地域振興の一助となるようにオープン致しました櫻正宗記念館“櫻宴”。2010年秋、装いも新たに生まれ変わりました。



櫻宴 蔵町通り（展示スペース）

□昔からの酒造りの工程を収めた貴重な VTR の上映から、櫻正宗創醸 400 年の歴史を物語る酒造道具、昔懐かしい看板や酒瓶やラベルなどを展示
□歴史深い展示に触れたあとは「櫻宴」をバックにあなただけのオリジナル酒ラベルを製作体験可

お問い合わせ

TEL : 078-436-3030

FAX : 078-436-3033

〒658-0025 神戸市東灘区魚崎南町 4-3-18



□阪神電車で「魚崎駅」下車、南へ徒歩 5 分（梅田駅から約 25 分、三宮駅から約 10 分）
□JR 神戸線で「住吉駅」下車、六甲ライナーに乗り換え「魚崎駅」下車、南へ徒歩 5 分（大阪駅から約 20 分、三ノ宮駅から約 10 分）

<p>訪問地</p>	<p>浜福鶴吟醸工房 http://hamafukutsuru.co.jp/koubou_top.html</p>
	<p>年間を通して酒造りの出来る設備をそなえた『吟醸工房』は、伝統の酒造りを皆様にお伝えしたいとの思いを込めて、全工程見学可能なガラス張り観覧設備、平成8年3月22日にオープン。ここでは、『吟醸工房』をバーチャルな空間の中に再現。</p> <p>古き良き時代の酒蔵、そして伝統的な酒造り。</p> <p>■浜福鶴『吟醸工房』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館時間 10：00～17：00（入館無料） ・休館日 月曜日（祝日の場合翌日）
	<p>酒蔵見学コース「もろみ仕込みが見られる」</p> <p>数ある酒蔵テーマ館のなかでも「もろみ仕込み」を見学できるのが浜福鶴吟醸工房の大きな魅力。ふつつつと醗酵する“酒の声”を聞き、芳醇な香りにつつまれながら酒造りの極意を体感。</p> <p>【見学工程】</p> <p>浸漬室→蒸米室→酒母室→吟醸室→压榨室→発酵室</p> <p>生酒試飲コーナー「いろんなお酒が味わえる」</p> <p>直売コーナー「限定品が買える」</p>
	<p>浜福鶴は長いレンガの煙突を目印に。1階はお酒やお菓子、立杭焼の器を販売するショップ。生酒（製成後一切加熱処理をしない清酒）の試飲もできます。</p> <p>2階は酒造り工場の全工程が見学できます。</p> <p>〒658-0025 兵庫県神戸市東灘区魚崎南町4-4-6 TEL078-411-8339 FAX078-411-1091</p>

訪問地 周辺情報



阪神魚崎駅

明治38(1905)年、阪神電鉄が大阪・出入橋と神戸・三宮を結んで開業した時から設置。灘五郷のひとつ、魚崎郷の酒造業に従事する人々も主な顧客に含まれた。



住吉川

六甲山からの流路は高低差があり、早い流れを酒造業などの水運に利用した。



阪神魚崎駅にて 出発前のコース確認



住吉川公園 さあ出発



阪神魚崎駅前にて 南北逆の地図、要注意



住吉川公園 菊正宗の広告塔を背景に

テーマ・キーワード	アサヒビール西宮工場見学		
参加者	何佳寧	川崎瑠美	関英恵

アサヒビール西宮工場見学ツアーの計画

1月29日(土) 10:30

阪急今津駅、宝塚方面行ホーム、先頭車両乗車位置に集合

◆この学外講義の目的

- ① 身近な食品の1つであるビールの製造工程を見学する。
- ② 食品工業を素材とした産業観光の一端を体験する。
- ③ 受講者自らがツアーを構成できる素養を身につける。

◆工場見学

◎案内係によるツアーは約70分

主な見学ポイント



●見学所要時間/約90分(ビール試飲を含む) ※見学ツアーやプランの内容により、一部ご案内を省略する場合があります。

<http://www.asahibeer.co.jp/factory/brewery/nishinomiya/midokoro/index.html>

◆学習情報の確認、点検

◎工場見学終了後、大学に戻り、報告書を作成予定。

【予約番号】47531

【予約情報】1月29日11時00分、人数:4名様(大人4名・未成年0名)

【問合せ先】アサヒビール西宮工場ご案内係 TEL:0798-36-9595 (受付時間 8:30~17:00)

□所在地 〒663-8241 兵庫県西宮市津門大塚町 11-52

阪急今津線「阪神国道駅」下車 徒歩約2分



<http://www.asahibeer.co.jp/factory/brewery/nishinomiya/kengaku/access.html>

本時講義のテーマ	アサヒビール西宮工場見学		
参加者	何佳寧、	川崎瑠美、	関英恵、指導教員：小松原尚
講義内容	1) 工場の概要:ビデオによる解説。工場の労働者からのメッセージ		
学生の感想も含めて	2) 工場内見学:麦芽の試食。ホップの中身など原料見分。ビール生産の作業工程。箱詰め工程のラインの見学。ビールの製造工程、おいしい飲み方まで、生産から消費までわかりやすく解説。		
	3) 試飲:ラガーと黒の比較		
	4) 感想:母国から両親や友達が来たならば是非案内したい。スタッフの案内が丁寧だった。ビールが大変飲みやすく、ビールの苦手な者に者にも受入れやすかった。作っている方々の情熱がたくさん詰まっているから、バイト先でビールを出すとき、入れ方などを注意し、いい状態のものをそのままお客さんに提供したいと思った。		



工場の説明、案内のビデオ上映鑑賞



西宮工場は今年8月閉鎖。工場集約の一環。



まずは乾杯



ビールの味などについて話し合いレポート作成



案内嬢と記念撮影



正門にて

用務 割卵工程やマヨネーズの製造工程の見学

①JR猪名川駅前



②キューピー伊丹工場



③伊丹工場での生産商品



④見学者用タグ



⑤マヨネーズの試食



⑥マヨネーズ関連商品



工場は JR 猪名川駅 ① から徒歩すぐの場所にある。見学を行う上での立地条件も良好である。工場の正面入口付近からながめると、建物の正面の大きなキューピーのマークが目立つ (②)。工場見学には先立ち、講義室にて説明を受けるが、室内の机には伊丹工場にて生産されている商品 ③ が並べられており、関心が高まる。工場見学中には指定のタグを首からぶら下げる ④。半透明のケースの部分はマヨネーズの封入に使われているチューブの素材である。見学中は写真撮影は禁止となる。見学終了後はマヨネーズの試食 ⑤ となる。クラッカーに少量を付けて食べた。関連商品 ⑥ に関しても提供され、同様に味を確かめた。

テーマ	国土の縁辺地域・北海道における醸造業の生産活動を素材とした観光の体験的調査		
参加者	シーピーツアーズ主催：ワイン・日本酒・ビールを学ぶ試飲付きツアー		
年月日	2011年3月18日	場所	北海道岩見沢市、恵庭市、栗山町
<p>① 宝水ワイナリー（その1）</p> 	<p>② 宝水ワイナリー（その2）</p> 		
<p>③ 小林酒造（その1）</p> 	<p>④ 小林酒造（その2）</p> 		
<p>⑤ サッポロビール北海道工場（その1）</p> 	<p>⑥ サッポロビール北海道工場（その2）</p> 		

宝水ワイナリー社長の倉内武美さんは、地元農家の3代目である。生産の地元密着とワインを媒介とした域外への情報発信に様々な工夫をしている。本社工場・事務所の2階フロアでは、アーツの鑑賞もできる(①)。また、本社工場・事務所の1階にて、社長から商品説明を受け、スタッフによる試飲提供もされた(②)。▼小林酒造では、タンクの蓋をとり、麹の発酵中の様子を観察、専務自ら案内・解説してくれた(③)。商品説明を受けつつ、試飲を楽しむ。専務は酒造りの醍醐味を語る(④)。ツアーの昼食は、小林酒造の敷地内にある錦水庵の「とりごぼうそば」をセットされていた。ごぼうの天ぷらと鶏肉の入ったものである。そばは、お酒の仕込み水で打ったものであり、すべて北海道産のそば粉を使っている。▼サッポロビール北海道工場では、注意事項、コースなどの案内(⑤)の後に見学ツアーがあった。その終了後、テーブルを囲んでの試飲、企業ショップも会場に併設されていた(⑥)。

テーマ テレビドラマの地域と産業観光への影響

① 余市消防署



② 余市駅前から蒸留所への国道229号線



③ リタハウス



④ 蒸留棟の内部



⑤ 見学者待合室の天井の梁



⑥ 余市駅で列車を待つ利用客



NHKで放映中の朝のテレビドラマの主人公が設立した醸造業（ウイスキー）の会社の工場を見学した。町中に「あやかり」が溢れている。新築間もないと思われる消防署（①）も工場の関連施設を連想させるつくりになっているし、工場に至る国道は主人公の配偶者の名前が付けられ（②）、研究室として使われていた構内の建物も彼女の名前を冠している（③）。この日も見学者は多く、構内のガイドツアーでは、49人が一組編成になっていた。このことは、蒸留棟（④）の見学者の様子からもわかる。⑤はウイスキー樽の貯蔵庫を転用した、見学者の待合室である。梁がV字型に天井を支えるトラスト構造になっている。ニッカは1930年代の設立であるが、19世紀の後半（明治時代初期）に建設をみた、富岡製糸場の構造とも通底するものと考えられた。現在、この建物は来客の安全に配慮し、鉄骨材での補強されている（白い棒状の部分）。見学者の交通手段はバスか鉄道である。マイカーでの来場も可能ではあるが、昨今の飲酒運転に対する罰則強化や社会的な趨勢を考慮すれば、飲酒が予想される工場見学には、公共輸送機関の利用が無難であろう。⑥は最寄のJR余市駅である。いわゆる「朝ドラブーム」の影響で、この時間帯は50人以上の乗客があった。駅員の話によると、通常なら10人程度とのことである。1両増結の2両編成で運行中である。

用務 日本最大の私鉄開業1世紀 近鉄電車展の観覧

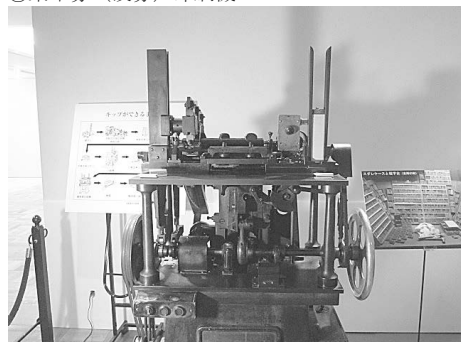
①参考館入口付近の案内板



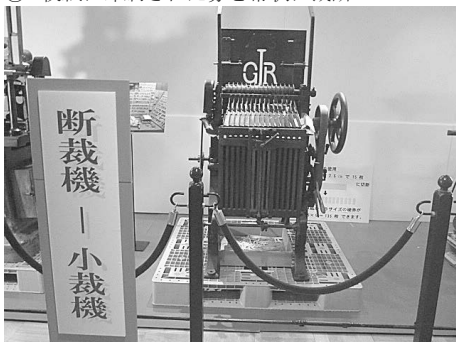
②電車のジオラマ展示



③乗車券（硬券）印刷機



④1枚紙に印刷された券を带状に裁断



⑤带状に裁断されたものを券片にする



⑥券片を記念品（右側）として配布



前年（2013年）の近鉄創立百周年に続き、今年は近鉄奈良線開通百年にあたる。これに関連して、様々な企画展が県内の美術館や博物館で開催されている。鉄道は地域経済・社会との関連が密接な産業であり、実態を踏まえた経済地理学研究には格好の対象である。そうした観点から上記展覧会の観賞を行った（①）。展示には、ジオラマをつくり、年齢層を超えて鉄道への関心を高めるような工夫がなされていた（②）。今回の企画の最大の呼物は乗車券（硬券）の印刷を当時の印刷機械と裁断機を使用して実演が行われたことである。まず文様の印刷された厚紙に券面の文字情報が印刷される（③）。続いてそれを带状に裁断する（④）。そして、最後に小断片に裁断（⑤）すれば出来上がりである。今回は入場記念に乗車券を模したものと特急券のそれとが、希望者に配布された（⑥）。「GIR」の文字はGovernment Iron Railway（国鉄）の意味である。

テーマ	地域現場実習教材研究ー地域のビジターセンターとしての展示施設見学		
日時	2012年3月25日	場所	祇園おもいで博物館
① 博物館入口			
② 博物館内の様子			
③ 博物館を運営する井筒屋			
④ 窓からは正面に南座を臨む			
⑤ 博物館のある井筒屋の建物			
⑥ 京阪・鴨東線祇園四条駅すぐの立地環境			

この博物館は、井筒八ッ橋本舗祇園本店の建物の5階の一角にある(①)。館内はコンパクトに整理されている。入口付近で祇園や歌舞伎に関するビデオ学習ができる(②)。係の方から展示物の説明もある。1階で買物をした客は200円の入場料は無料となる。甘納豆のサービスも受けられる。背後の書籍は展示物ではなく商品である。江戸時代にはこのあたりに、幕府公認の芝居小屋が建てられた。正面南座の櫓はその印である(④)。また、この建物(⑤)は北座の跡に建てられた。櫓の下の窓から撮った写真が④である。また、眼下は京都市鴨東駐車場である。また、京阪電車の祇園四条駅から至近の距離にあり、訪問には容易な場所である。館内の規模を考えると大人数での利用には向かないが、地域のポータルの位置にあり、立地上からも、地域学習の位置づけから活用可能な展示施設である。

バルまちレポート

※同じ番号は同一人物を示します。

2011.5.20 調査

	番	内容
① マ ッ プ に 対 し て の 感 想	1	マップはカラーで紙の質も良く、無料にしては高いオリティであると感じた。また、マップは広範囲であったが、シンプルで字も大きく見やすかった。厚めの紙を使用していて、ぐしゃぐしゃになりにくいので、歩きながら見るのにちょうど良かった。全参加店の写真と説明文が載っていてわかりやすいので、店選びがとても充実しておもしろかった。冊子状になっていれば、もっと使いやすかったのではないかと思った。
	2	マップはカラーで、店の詳細が写真付きで書かれていたので、とても見やすかった。実際、店の名前だけではわからない点が多いが、それぞれの店の詳細と写真があったことで、どのような店があるのかわかりやすかった。また、マップの右端に、それぞれの店の営業時間が一覧でわかるようになっていたので、時間帯によってどの店が開いているのかが、すぐわかるように思う。マップを見ると、こんな店もあったのかと、自分の知らない店が多くあり、また今度行ってみようという気持ちになった。
	3	比較の見やすいマップになっていると思った。(参加店を番号で示してある、寺社仏閣・世界遺産などの観光地を載せてある、イラストが描かれている、トイレの場所を示してある、インフォメーションの場所を示してある) けれども、ならまち界限は道が入り組んでいて、マップが少しわかりにくく、我々も道を間違えたので、ならまち周辺の拡大マップをつけてくれていると、より良い。
	4	地図が要点をわかりやすくまとめて作られていたのでよかった。マップを見て奈良には美味しそうな商品を出しているお店がこんなにも多くあったのかという発見があった。どの店も飲み物十一品なので、お店同士比較し易かった。期間中まちを歩いていてバルマップを持っている人を見ると、仲間意識が湧いて嬉しくなった。5枚つづりのバルチケットをどう利用するかを仲間同士で話し合っているんな利用法を考えるのは楽しかった。
② イ ベ ン ト 参 加 店 を 利 用 し て の	1	こういった機会がないと、行くことはもちろん知ることすらなかったであろう店だった。最初お店を見たときは雑貨屋かと思いき、店の奥にテーブルを発見したときは少し驚いた。先に来ていた客が、飲食代の支払いの時に、一緒に雑貨も購入していた。飲食店のなかで雑貨を販売しているケースは多いけど、雑貨があればだけのスペースを占めているのは、あまり見たことがない。「喫茶・工房まほろば」という名前だけあった。また、バルチケットでドリンクも付いていたのに、最初に水、最後にお茶も出てきて、とてもサービスの良い店であった。リピーターになりたいと思った。
	2	実際に店に入って、ご飯を食べると、こんなにもお得感があるとは思わず、驚いた。料理は美味しく、ソフトドリンクもあったので、とても満足だった。店の利益にはなっているのかと気にはなったが、利益というより活性化を目的としている点が大きいのだろう。また、店が混雑していなかったのも、十分ゆっくりできたように思う。
	3	座席数が少なく、混んでなくてよかった。飲食店だけでなく、雑貨も売っていて、退屈せず待つことができた。600円にしてはボリュームもあり、ドリンクもついてお得感があり、おいしかった。

感想	<p>4 お店自体は以前から知っていて、工房は利用したことがあったのですが、喫茶は初めてで、こんなに美味しい料理もいただけるのかと新しい発見があった。他のお店で18時を少し過ぎた時点ですでに混んでいたお店もあったけど、利用したまほろばは他の利用者がいなかったのので、落ちついて利用できたし、少し距離を歩いたことでよりお腹が減って更に十分満足することができたのではないかと思います。よいお店を見つけれられたという達成感もあって嬉しかった。</p>
----	--



「喫茶・工房まほろば」の店内の様子。ドリンクとチャーシュー丼定食
 店内には、奈良をモチーフにした展示品や商品が並べられていた。
 老夫婦で経営され、ほのぼのとしたムードの店内であった。



箸袋、二人前で1セットのデザイン

③ その他	<p>1 私の奈良のまちに対するイメージの変化 私は通学に近鉄電車を利用しているので、近鉄奈良駅近くの東向き商店街はよく通っていて、どこにどんな店があるのかだいたい分かっていた。東向き商店街は、マクドナルドやミスタードーナツ、ダイソーなどのチェーン店が目立ち、東向き商店街以外をあまり知らない私にとっては、「奈良のまち=チェーン店ばかり」という印象が強かった。しかし今回、まちなかバルに参加し、実際に東向北商店街やならまちを歩いてみて、「古都奈良」の雰囲気や良い意味での地味さといった「奈良らしさ」を発見することができた。ならまちにはチェーン店はほとんど無く、まちの景観に馴染みつつも個性的な店が多く存在した。ある店は若者の客でにぎわっていたり、ある店は店員と客が親しげに会話していたり、どの店も醸し出す雰囲気は違っていたけれど、どの店も味わいがあって、まちの魅力向上に貢献しているのだろうと思った。イベントに参加した多くの人が、私のように奈良の良いところを発見できていたら、このまちなかバルは大成功だろうと思う。</p>
----------	---

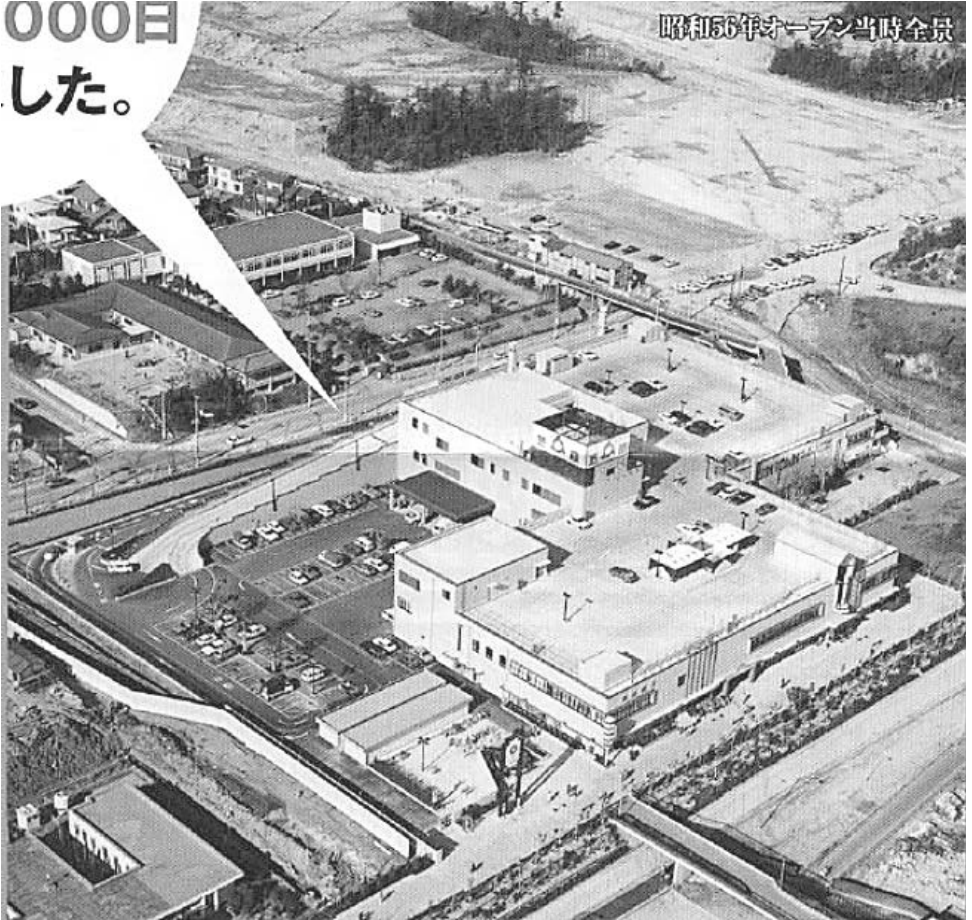
テーマ	ニュータウン高の原の変貌、主に「近商」、「イオン」の小売商業施設を中心に		
日時	2012年5月7日(月) 午前9時集合・出発	集合場所	高の原イオン入口 ※奈良市側の野外エスカレータ前
①伊東理・関西大学教授より講義	②イオン高の原前の広場		
			
③高の原第二ショッピングセンター	④UR都市機構平城第二団地48号棟前		
			
⑤イオン高の原店内	⑥イオンのテラスで記念撮影		
			

奈良県立大学の「経済地理学」の8、9講で流通業の存立形態を扱う。その関連で、臨地で、ご専門の伊東理先生から直接お話しを伺えるまたとない機会と位置づけて実施した。今回は関西大学教授の伊東先生が非常勤講師をされている奈良大学大学院の講義の一環であるから、その点もしっかり学生に伝えた上で参加者を確定した。この巡検は、近隣住区理論に基づく低次サービス拠点の配置と、少子高齢化に伴う、低次サービスの劣化、大規模店の進出と既存小売の生き残り戦略、などを伊東先生の説明を受けつつ、その様子を実際に観察できた。

奈良県立大学からの参加学生は、【4年】東帆奈美、藤本菜緒子【3年】岡里奈、坂野伶花、真柴珠希、松井明子の6名であった。

000日
した。

昭和56年オープン当時全景



1981年、オープン時、サントウン・すずらん館



ショッピングセンター
右奥に近鉄京都市線「高
の原駅」が見える

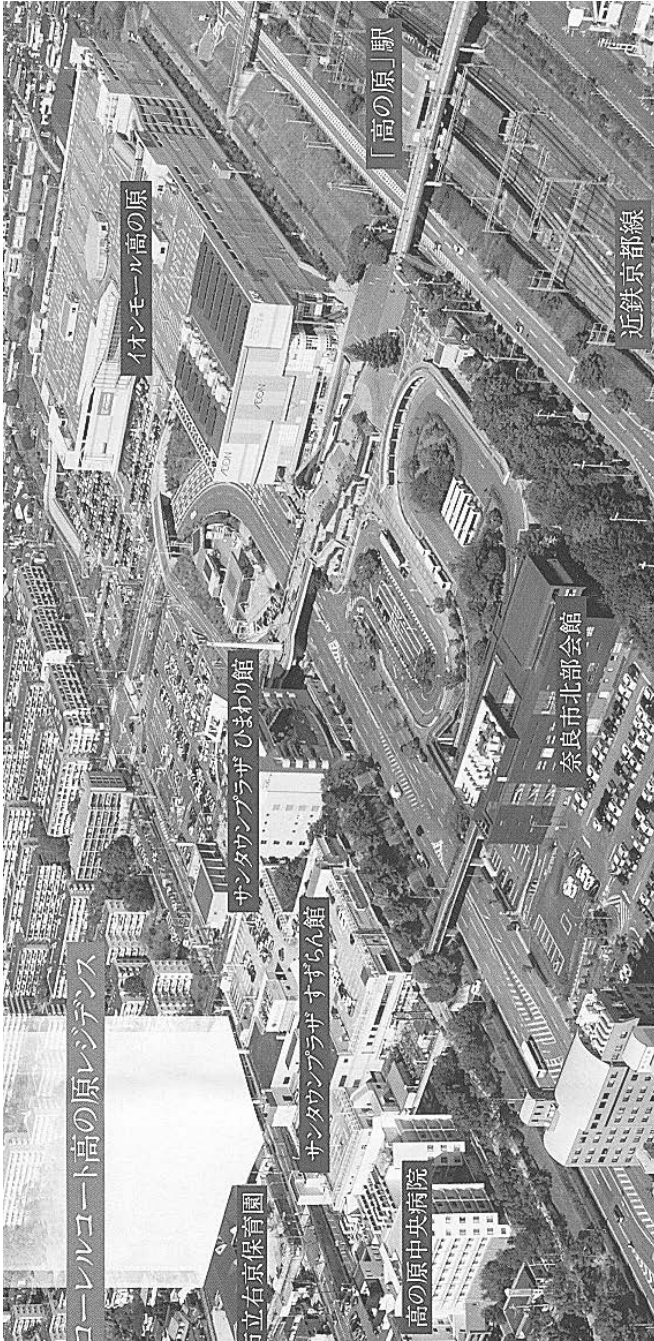
2011年11月の朝日新聞の記事より。





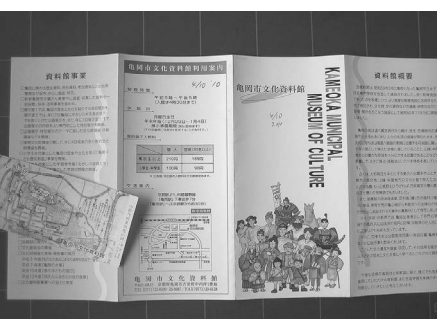



ショッピングセンター内の府県境 朝日新聞による。









2011年3月3日撮影。ショッピングセンターの看板の付け替え時の作業の様子。人間の大きさと比較してみよう。



テーマ 日時	亀岡市における城下町の街並み研究 2010年4月10日	場所 京都府亀岡市文化資料館
		
		
		

- ① 嵯峨野（山陰）線の亀岡までの複線化工事の完成をみ、輸送力が増した。
- ② 駅から南郷公園に至る街路の整備が進められた。
- ③ まちの顔となる JR 亀岡駅の社屋も新築改装されている。
- ④ 城の堀の一部を構成する南郷池と周辺を公園として整備され、桜の名所の1つとなっている。
- ⑤ 亀岡市文化資料館の案内パンフレットと入館半券
- ⑥ 「京都・亀岡 城下町散策 MAP」古地図をベースにして現代の地図を透明な用紙に印刷し、重ね合わせて比較できるようになっている。この冊子を手掛かりに、市街地の観察を行った。

テーマ	白金、白金台における都市生活の変化を景観にみる観察活動	
① 2008年、アエルシティ周辺		② 2015年、アエルシティ周辺
		
③ 2008年、白金一丁目		④ 2015年、白金一丁目
		
⑤ 2008年、四の橋商店街		⑥ 2015年、四の橋商店街
		

参考文献(2)に連載中の「スキマファイル」の第3回の「白金・白金台のスキマ」を手掛かりに野外活動を実施した。この冊子の編集・発行元に問い合わせたところ、実質的に編集業務を請け負っているアルシーヴ社の佐藤真さんを紹介された。早速、連絡をとると、冊子の記事の取材活動のために参考にしたのが参考文献(1)とのことであった。この文献を手掛かりにコースの設定をし実際に歩いてみた。7年ほどのインターバルであるが、再開発地区周辺の様子は大きく変化している。例えば②では真ん中の家屋がブティックになっているし、③の平屋は2階建てに改装され、高級食材を扱う肉屋になった(④)。その一方で、住宅地の商店街は昔日の名残を留めていることもわかった(⑤と⑥)。

【参考文献】

- (1) TEKU・TEKU 編 (2008) 『まち歩きガイド東京+』学芸出版社:142-152頁。
- (2) 一般財団法人第一生命財団 (2014) 「city & life」no.112 ; 29-32頁。

テーマ	「食べ放題」の人気理由、およびこれからのバスツアーの傾向について。		
参加者	赤チーム 小野・岡・大槻・甲斐・北岡		
年月日	2011年	場所	
①JTB 旅行代理店前			
②東北支援アピールのポスター			
③食べ放題の様子			
④天橋立			
⑤メロン狩りの説明中の様子			
⑥出石町の酒蔵			

近鉄奈良駅付近にはJTBの旅行代理店がある(①)。自動ドアには東北を応援する張り紙がされていた(②)。ここでは東北大地震による影響を中心に聞き込みを行った。

ツアーメインは丹後での食べ放題の昼食(③)。あわびやえびなどの海産物が中心となったメニューだった。食事の後は天橋立を見る時間も確保されていた(④)。天橋立のあとは場所を移動し、メロン狩りをした(⑤)。メロン狩りの後は出石市へ向かい、城下町跡散策をした。昔からの酒蔵が残っており(⑥)、他にも古い町並みが保存されていた。観光案内所も設置されており出石での観光について少しお話を伺うことができた。出石では城下町の雰囲気壊さないように注意していること、蕎麦が有名なのでスタンプラリーなどのイベントもしていることなどが聞いた。その後、大阪方面へと帰り解散となった。

テーマ	「佐藤錦」食べ放題、舞鶴アジサイ観賞バスツアーに参加して		
参加者	樽松悠（黄チーム：田中楓、田中信太郎、長濱萌、樽松悠）		
年月日	2011年 6月 19日	場所	天橋立、舞鶴自然文化園ほか
①伊根湾の景色			
②天橋立にある智恩寺			
③にぎり寿司・佐藤錦食べ放題			
④海鮮市場			
⑤約 5 万本のアジサイ			
⑥移動中の様子			







朝は 7 時 45 分に梅田のブラザモータープール茶屋町駐車場に集合だった。朝早く、天気も曇っていたので人が少ないと予想していたが、受付やその周りには溢れんばかりの人がいてとても驚いた。年配の方が多いいのはある程度予想できていたが、子連れの家族や、恋人同士での参加も意外に多かった気がした。まず、丹屋の里公園からの伊根湾の景色を堪能した。NHK の連続テレビ小説「ええにょぼ」でも放映されてからは全国的にも有名な観光地である (①)。次に、天橋立に行った。私は初めて行ったが時間の都合上、展望台まで行くことができなかったことが残念だった。また、智恩寺は三文殊の 1 つとされているらしく、受験生も多々訪れるらしい。参加者の方は、熱心にガイドさんのお話に耳を傾けていた (②)。このバスツアーのメインの 1 つであるにぎり寿司・佐藤錦などの食べ放題である。前半の 20 分にぎり寿司やサザエなどの食べ放題で、後半の 20 分が佐藤錦とメロンの食べ放題だった。全員自分が食べたいものを思い思いに食べていた。すごくおいしかった (③)。舞鶴とれとれセンターの海鮮市場の様子である。人で賑わっていて、新鮮な魚やエビなどをたくさん見ることができて良かった (④)。もう 1 つのメインである約 5 万本のアジサイが観賞できる舞鶴自然文化園である。たくさんの種類のアジサイがあって記念撮影をしている人が多かった (⑤)。今回は、移動の時間がとても長く、バスでの滞在時間がとても長かった。バスガイドさんがこまめにバス内の空調がちょうどよいか確認してくれて、参加者からすれば、とても有難かった。移動中は疲れのせいか仮眠をとっている参加者がとても多かった。この日は、ETC の休日割引最後の日ということもあって、帰りは渋滞に巻き込まれた。しかし、梅田に到着したのはほぼ予定通りで、主催者側のしっかりとしたタイムスケジュールを再確認できた (⑥)。個人的にもすごく楽しむことができて、とても良かった。

テーマ	天橋立の自然やグルメ、旬なアジサイを素材とした観光の体験的調査		
参加者	田中信太郎（黄チーム：樽松悠 田中楓 長濱萌、田中信太郎）		
年月日	2011年6月19日実施	場所	京都府天橋立、舞鶴ほか
①伊根の舟屋からの海景		②天橋立 智恩寺	
② 智恩寺 智恵の輪		④天橋立 砂浜	
③ 海鮮市場		④ 舞鶴自然文化園 アジサイ園	







まずは、伊根の舟屋に行った。伊根町の代表的な観光スポットで「男はつらいよ」「釣りばか日誌 5」「ええによぼ」など、映画やドラマのロケ地として有名だ。舟屋とは民家の種類の一つで、伊根湾の海面すれすれに建築されているのが特徴だ(①)。

次に日本三景の一つ、天橋立に行った。天橋立にある智恩寺で参拝をした(②)。智恩寺は知恵の文殊と呼ばれ、山形県高島町の亀岡文殊、奈良県桜井市の阿倍文殊とともに日本三文殊のひとつとされる。その境内に智恵の輪灯籠がある(③)。智恵の輪を3回くぐれば文殊の智恵を授かるという言い伝えがある。受験シーズンは多くの受験生が集まるようだ。天橋立は白い砂浜と水質の良さで雑誌にも取り上げられる海水浴スポットでもある(④)。まだ6月なので泳いでいる人はいなかったが、夏は海水浴も可能だ。昼食は寿司10種、アマエビやアワビ等の海鮮物、サクラランボの王様である佐藤錦、メロンの食べ放題。バイキング形式だったが、ツアー参加者が必至で佐藤錦を取っていくので、どれだけ楽しみにしていたのが窺われた。日本海側最大級の海鮮市場を持つ道の駅の舞鶴港とれとれセンター、またの名を海鮮市場(⑤)。その面積は480坪もある。舞鶴若狭高速道無料化、ETC搭載車の高速道路1000円期間の最終日のせいか、海鮮市場は人で溢れていた。ツアー参加者はここで土産を購入した。最後に舞鶴自然文化園のアジサイ園に行った(⑥)。5万本ものアジサイで埋めつくされるので「アジサイの海」と呼ばれている。しかし、ツアー当日は時期が早かったせいか、まだ五分咲き程度であった。平坦な土地にはなく、斜面にアジサイが植えられているのだが、五部咲きでも十分に感動できるものだった。

今回のツアー参加者の話で最も印象的なものは、旅行の楽しみを聞いたときなのだが「旅行前にその行先の歴史、噂、おススメスポットなどを予習して、その内容を同行者に話すこと」というものだ。行先の風景や食べ物ではなく、同行者との会話などが楽しみなようだ。あと、パンフレットには行きと帰りの時間は記載されていたが、途中の時間までは記載されてなく、想像以上にバス移動の時間がツアー時間を占めていた。バス移動中の楽しみ方なども心得ていたほうが良いのかもしれない。

テーマ	バスツアー～フランス料理と伊吹山のお花畑散策～		
参加者	藤井祐実（緑チーム：橋本真央、藤田あゆみ、古瀬太一、藤井祐実）		
年月日	2011年 6月 15日	場所	滋賀県
①大通寺	②万華鏡のある庭		
			
③万華鏡「天の華」	④醒ヶ井		
			
⑤伊吹山	⑥皆で記念撮影		
			

①まず私たちが向かった場所は「黒壁スクエア」。黒壁の建物が立ち並ぶ道を進んで行くと見えてくるのが「大通寺」別名を「長浜御坊」という。安土桃山時代の建築様式を伝えている。②③とあるレストランの隣の細い道を進んで行くとまるでジブリの世界に入ったかのような庭が現れる。ここには全高8Mにもなる巨大な展望台「天の華」がある(③)。長浜出身の科学者が万華鏡を作製し、その万華鏡が日本最古とされているため、長浜では万華鏡が今でも多くの人々が作り続け、愛されているのである。④伊吹山に向かう前に寄ったのが「醒ヶ井」。年間を通して水温が14℃という清流。この川には絶滅危惧種に指定された「ハリヨ」というとげのある魚が生息している。またこの場所では有名なのが「梅花藻」。私たちが訪れた日は前日に雨が降った為に見ることが出来なかったが、水量の少ない時には水の中から水面に向かってたくさんの白い花を付ける梅花藻を見ることができる。⑤今回のツアーのメインでもある伊吹山。バスをおりた瞬間、涼しさを感じるほどに駐車場の時点で標高が高いことが分かる。伊吹山にはちょうど良い季節になると季節に合わせてたくさんの花が咲くという。残念ながら私たちはお花畑を見ることが出来なかったけれど、キレイな景色を見ることが出来た。⑥同じツアーに参加していた人に撮ってもらった写真。伊吹山では参加者とも親しく出来たのでとても楽しいツアーになった。

テーマ	バスツアー		
参加者	古瀬太一（緑チーム：橋本真央、藤井祐実、藤田あゆみ、古瀬太一）		
年月日	2011年	6月	15日
	場所		
①			
②			
③			
④			
⑤			
⑥			

私たちの班は、最初に滋賀県長浜市にある「黒壁スクエア」という所へ行った。そこではガラス細工が有名で町のいたるところにガラスのできた物が点在してあった(①)。「黒壁スクエア」には、お江が過ごしたといわれる大通寺というお寺があった。その影響か、平日ではあったものの観光客がたくさんいた。「黒壁スクエア」を散策した後で、ホテルのシェフが作ったフランス料理のフルコースを食べた。次に滋賀県米原市へいき、「梅花藻（ばいかも）」という珍しい藻を見た。その日は前日に雨が降ったために水嵩がましていたために、綺麗には見られなかったのだが、たまたま花が咲いている梅花藻があった(②)。米原には、綺麗な川が家の前を流れていて、とても雰囲気の良いところであった(③)。最後にこのバスツアーのメインである伊吹山に行った。標高 1220m くらいまでは車でいけたので、実際に上ったのは 1000m くらいであった(④)。登頂中に景色が広がっていき、町を見下ろしたときはすごく気持ちよかった(⑤)。山頂に何かの像が立っていた(⑥)。伊吹山に登頂したらこのバスツアーは終わり、帰宅し、無事バスツアーを終えた。

テーマ	旅行相談を含めた旅行会社聴き取り調査		
参加者	藤島亜里沙、主原知弥、寺地誠太郎、松葉奈緒子、宮原はるか		
年月日	2011年	5月	21日
場所	京都美山	かやぶきの里	

①添乗員の方による京都ガイド



②かやぶきの里



③美山民俗資料館 1



④美山民俗資料館 2



⑤かえで御膳（自然文化村にて）



⑥牛乳工場



添乗員の方が、京都駅から美山への道のりで通った観光名所の歴史的な説明をしてくださいました。本能寺や、二条城に関する豆知識も教えてくださいました。(①) かやぶきの里は、江戸時代からの伝統が受け継がれている。周りは山に囲まれていて大自然を満喫することができた。(②) 美山民俗資料館には、村の人が制作している“ふるさと新聞”を読みながら、美山のお茶を飲むことができた。また、かやぶきの家の造りや、昔の資料・道具などを見ることもできる。(③・④) 昼食には美山で獲られた鹿肉を食べた。自然文化村では、オカリナづくりや、バラの化粧水づくりなど、様々な体験をすることができる。(⑤) 美山の道の駅には、牛乳工場があり、新鮮な牛乳でつくられたソフトクリームや、ジェラートを食べた。(⑥)

テーマ	バスツアーをいかに楽しく過ごすことができるか？			
参加者	大野 樹里	高瀬 恵	中元 和歌	森下 祥平
年月日	2011年	5月	22日	場所 二条城 南禅寺 青蓮院

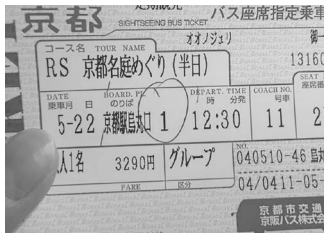
①



②



③



④



⑤



⑥

定期観光バスアンケート

本日は定期観光バスをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。
 皆様のご意見や今後の改善資料にさせていただきます。ご意見ですが、
 ご意見を記入の上、係員までお預けください。

[該当する番号を一つで記入してください。チェックは具体的に記入ください。]

性別	① 男	② 女	年齢	()歳	ご性別	()新連行
ご職業	① 会社員	② 公務員	③ 自営業	④ 無職	⑤ その他	
職業	⑥ 専業主婦	⑦ フリーター	⑧ 主婦/パート	⑨ 学生		
今回のご旅行で	④ 自分だけ	⑤ 家族の旅行	⑥ その他			
同行者はおられますか？	④ 友人・知人	⑤ 職場の同僚	⑥ その他			
京都までご利用になられた交通機関の中で、お持ち帰りになった荷物	① 新幹線	② JR線 (新幹線以外)	③ その他			
	④ 京阪電車	⑤ 近鉄電車	⑥ 阪急電車			
	⑦ 社会線 [京阪が中心の線(京都-)]	⑧ 阪急電車	⑨ 自家用車			
理由をお書きください。(複数回答可)	① 観光地向き車両が少なかったから ② 観光向きの車両がなかったから ③ 人にすずめられたから ④ 乗客が少なかったから ⑤ コールサービスに意味がなかったから ⑥ その他 (理由)					

私たちは四条河原町の旅行会社を何社か訪ねた。(①)今回私たちが参加したツアーを見つけるきっかけとなった京都観光案内所である。中は外国語専用のカウンターもあった。(②)参加したツアーは京都名庭ツアーである。12時半から3時間半かけて、3ヶ所を回る半日ツアーだった。購入したチケットは各寺院の入場券として兼用できた。(③)南禅寺の庭園はきれいに整備されており、屋根の長さも遠近法を使い、メンバーとたわいない話をしながら楽しく回ることができた。メンバー全員で写真撮影もした。(④)最後に青蓮院を訪れた時には晴れの空が広がっていた。鐘を鳴らせる場所もあり、みんなで1回ずつ鳴らした。寺院は静かで、すごく心が洗われた。(⑤)添乗員さんに渡されたアンケートを渡された。職業、このツアーを知った理由、ツアーに参加した回数などが質問事項として掲載されていた。これからのツアーに活かすために非常に重要なアンケートだと感じた。半日がすごく早く感じられてとても楽しかった。(⑥)

おわりに

奈良県立大学研究会からの教材作成助成の交付は小松原にとっては、3回目となる。この助成事業の目的の1つは研究成果の学生への還元である。過去2回を振り返ってみると、初回(2002年度)は「北海道における観光地の存立形態」を標題とし、「観光地理学」の講義の教材として作製した。岡山大学に提出した博士学位論文をもとにした冊子である。第2回目(2007)は「地域創造の研究」をテーマとしたものであった。これまで本学の紀要(研究季報)や研究誌に掲載された論文や、本学のスタッフを中心に編まれた『地域創造へのアプローチ』(2003年刊)、『地域創造への招待』(2005年刊)やその他の学術書に小松原が分担執筆のものを集成したものであった。いずれも研究成果を教材化したものだ。

そして今回は、前2回とは若干趣を異にしている。それは、既発表の研究論文が含まれていないことである。しかし、だからといって本誌は思い出をちりばめた詞華集ではない。なぜなら、本誌掲載の素材の中には研究旅行の出張報告など、学内の諸届に活動の内容がわかる「証拠書類」の1つとして添付されたもの、学生との野外活動の資料として小松原が作成したもの、その活動の学修成果物として学生から受け付けたものなど、それらは教育・研究活動の一環としての成果に違いないものだからである。ただし、それらの多くは、時間の経過とともに廃棄される運命のものも少なくない。情報が共有化されずに雲散霧消してしまうのも残念である。それも本誌を編んだ理由の1つなのである。

本誌が前二回のもものと異なっているのは上記のことに止まらない。既にお気づきのように写真中心に編集したものであることである。これらの撮影や掲載にあたっては地域の皆様、自治体職員の方々や学生諸君、教職員諸氏の協力なしには成しえなかつたのであり、その意味で各位に改めてお礼申し上げたい。中でも、本学特任教授・田辺征夫先生(前・奈良国立文化財研究所所長)には、岡田庄三さんをご紹介いただき、奈文研に対してもその写真利用に関しての便宜をはかっていただいたことに感謝申し上げます。

また、「町家等地域資源発掘・発信事業」における地域資源発掘活動の御所市での報告会(2013年3月)にあつては、奈良県土木部まちづくり推進局地域デザイン推進課より、中尾晃史課長(当時)をはじめとするスタッフの皆さん、さらに地域振興部教育振興課からも参加いただき、ワークショップにもかかわっていただいた。この活動は、地域住民の皆さんと自治体、そして大学それぞれがその領分をわかまえつつ、学生に対して学びの場を提供するという地域志向教育の先行事例の1つとしても貴重な経験になったと思う。

現在、本学にあつては地域志向教育を推進しつつある。本書がその実践において幾ばくかでも役立てば幸甚である。

(小松原)

本誌の刊行にあたっては奈良県立大学研究会 2015 年度教材作成助成費の交付を受けた。

ブックレット **地域指向教育研究** (非売品)

2015 年 6 月 30 日 発行

編著者 小松原 尚

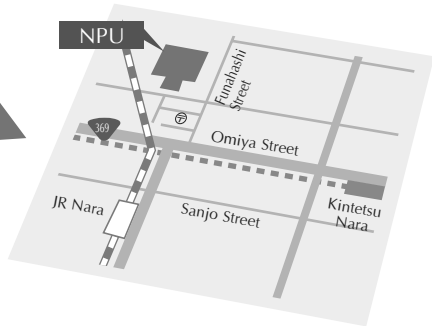
連絡先 630-8258 奈良市船橋町 10 番地 奈良県立大学
E-mail : hisashik@narapu.ac.jp

印刷製本 共同精版印刷株式会社

Where is Nara Prefectural University

Located in the heart of the oldest capital city in Japan, Surrounded by many World Heritage sites.

1 ½ hour from Kansai International Airport and 30 min. from Osaka and Kyoto where Japan's most popular cities to visit.



NPU has been selected for the FY2013 'Promote universities as the Center of Communities (COC) Plan' supported by MEXT.



Nara Prefectural University

Faculty of Regional Promotion

Tourism Creation

Urban Culture

Community Design

Regional Economy

Global Communication Center

10 Funahashi-cho, Nara City, NARA 630-8258 Japan

Tel : +81 742 93 5296 | Fax : +81 742 22 4991 | <http://www.narapu.ac.jp/>

